

# 目次

## I. 専攻科の概要

(1) 教育目的	1
(2) 専攻科の沿革	1
(3) 入学資格	1
(4) 専攻科の教育方針	1
(5) 教育課程の編成方針	1
(6) 専攻科の教育課程	2、3、4、5

(7) 専攻科の教育課程	6
① 洋画系	6
② 日本画系	7
③ デザイン系	8
④ 陶芸系	9
⑤ 染織系	10
⑥ クラフト(工芸)デザイン系	11

## II. 専攻科の授業科目概要

### A 群・B 群科目

#### ■専攻理論

##### 1 年生

科目名	担当者	ページ
日本美術史	宮嶋幸子	13
西洋美術史	高藤大樹	14
美術教養特論Ⅰ 美学・美術史(Ⅰ)	高藤大樹	16
美術教養特論Ⅰ 美学・美術史(Ⅱ)	高藤大樹	17

##### 2 年生

科目名	担当者	ページ
美学・芸術学	石黒義昭	15
美術教養特論Ⅱ 考古学概論(Ⅰ)	ト部行弘	18
美術教養特論Ⅱ 考古学概論(Ⅱ)	ト部行弘	19
美術教養特論Ⅱ 芸術学	折居耕拓	20

### C 群 科目

#### ■専攻演習・専攻実習

##### 1 年生

科目名	担当者	ページ
専攻演習Ⅰ(洋画制作Ⅰ)	平田泰延	21
専攻演習Ⅰ(日本画描写Ⅰ・Ⅱ)	小笠野美宗	22
専攻演習Ⅰ(立体造形演習Ⅰ)	広岡真彩	23
専攻実習Ⅰ(洋画制作Ⅲ)	谷口嘉彦	24
専攻実習Ⅰ(日本画制作Ⅱ・Ⅲ)	富高松顕	24
専攻実習Ⅰ(立体造形実習Ⅰ)	富高松留	26
専攻実習Ⅱ(洋画制作Ⅸ)	富高松美	27
専攻実習Ⅱ(日本画制作Ⅶ)	小笠野美宗	28
専攻実習Ⅱ(立体造形実習Ⅱ)	中川真賀	29

##### 2 年生

科目名	担当者	ページ
専攻演習Ⅱ(油彩制作Ⅰ)	平田泰延	30
専攻演習Ⅱ(日本画描写Ⅳ・Ⅴ)	小中尾美壽	31
専攻演習Ⅱ(立体造形演習Ⅱ)	谷富松嘉彦	32
専攻演習Ⅲ(油彩制作Ⅶ・Ⅷ)	小笠野美宗	33
専攻演習Ⅲ(日本画描写Ⅶ・Ⅷ)	小笠野美宗	34
専攻演習Ⅲ(立体造形演習Ⅲ)	中川真賀	35
専攻実習Ⅲ(油彩制作Ⅲ)	高片橋野頭	36
専攻実習Ⅲ(日本画制作Ⅷ・Ⅸ)	大石槻股	37
専攻実習Ⅲ(立体造形実習Ⅲ)	富高松留	38
専攻実習Ⅳ(油彩制作Ⅸ)	富高松美	39
専攻実習Ⅳ(日本画制作Ⅹ・Ⅺ)	小笠野美宗	40
専攻実習Ⅳ(立体造形実習Ⅳ)	吉岡真賀	41

### D 群 科目

#### ■実技演習・実技実習

##### 1 年生

科目名	担当者	ページ
実技演習Ⅰ	洋画 平田泰延	42
	日本画 辻野宗一	
	デザイン 西岡幸康	43
	陶芸 松本康卓	
	染織 近藤山知	
	クラフト 片山	

科目名	担当者	ページ
実技演習Ⅱ	洋画 廣田美直	44
	日本画 松浦直子	
	デザイン 西岡幸二	45
	陶芸 石黒由紀	
	染織 中井希子	
	クラフト 藤本菜穂	

科目名	担当者	ページ
実技演習Ⅲ	洋画 廣松美直	46
	日本画 山浦本代	
	デザイン 山本康	47
	陶芸 山本康	
	染織 酒井沙	
	クラフト 青木聖	

科目名	担当者	ページ
実技演習Ⅳ	洋画 小笠野美華	48
	デザイン 小神澤孝宣	49
	陶芸 河野榮一	
	染織 酒井美織	
	クラフト 青木聖	

科目名	担当者	ページ
実技実習Ⅰ	洋画 高橋顕	50
	日本画 石股根祐	
	デザイン 関大正	51
	陶芸 近藤卓	
	染織 大藤山知	
	クラフト 片山	

科目名	担当者	ページ
実技実習Ⅱ	洋画 小笠野美華	52
	日本画 広岡真彩	
	デザイン ブラッキー中島	
	陶芸 河野榮一	53
	染織 近藤卓	
	クラフト 小西佳	

科目名	担当者	ページ
実技実習Ⅲ	洋画 岸中延	54
	日本画 石股根祐	
	デザイン ブラッキー中島	
	陶芸 松本康	55
	染織 中井由希	
	クラフト 濱久仁子	

科目名	担当者	ページ
実技実習Ⅳ	洋画 小笠野美華	56
	日本画 中尾美壽	
	デザイン ブラットン・ガン	
	陶芸 石黒紀子	57
	染織 河合芙	
	クラフト 片山知佳	

# 目 次

## D 群 科 目

### ■実技演習・実技実習

#### 2回生

科 目 名	担 当 者	ペー ジ
実技演習V	洋画 平 田 泰 延	58
	日本画 中 尾 壽 男	
	デザイン 西 岡 幸 二	
	陶芸 松 本 康 代	
	染織 中 井 由 希 子	
実技演習VI	クラフト 片 山 知 佳	60
	洋画 小 笠 美 華	
	日本画 広 岡 真 彩	
	デザイン プラケット・ダンカン	
	陶芸 河 野 榮 一	
実技演習VII	染織 近 藤 卓 浪	61
	クラフト 和 田 誠 之	
	洋画 廣 田 美 乃	
	日本画 石 股 昭	
	デザイン 西 岡 幸 二	
実技演習VIII	陶芸 松 本 康 代	62
	染織 酒 井 沙 織	
	クラフト 藤 本 菜 穂 子	
	洋画 高 橋 顕 児	
	日本画 大 槻 睦 子	
実技実習V	デザイン 関 根 祐 司	64
	陶芸 惣 田 司	
	染織 近 藤 卓 浪	
	クラフト 片 山 知 佳	
	洋画 小 笠 美 華	
実技実習VI	日本画 辻 野 宗 一	66
	デザイン ブラックキー中島	
	陶芸 河 野 榮 一	
	染織 伊 藤 藍	
	クラフト 片 山 知 佳	
実技実習VII	洋画 廣 田 美 乃	68
	日本画 石 股 昭	
	デザイン 山 本 康 代	
	陶芸 松 本 康 代	
	染織 酒 井 沙 織	
実技実習VIII	クラフト 小 西 佳 子	69
	洋画 岸 中 延 年	
	デザイン ブラックキー中島	
	陶芸 石 黒 紀 子	
	染織 近 藤 卓 浪	
実技実習IX	クラフト 濱 久 仁 子	70
	洋画 岸 中 延 年	
	デザイン ブラックキー中島	
	陶芸 石 黒 紀 子	
	染織 近 藤 卓 浪	

## E 群 科 目

### ■実技演習

#### 1回生

科 目 名	担 当 者	ペー ジ
進級制作 (洋画)	小 笠 美 華	72
進級制作 (日本画)	石 股 昭	73
進級制作 (立体造形)	谷 口 嘉 彦	74
	富 松 留 幹	
	中 川 賀 照	

#### 2回生

科 目 名	担 当 者	ペー ジ
修了制作 (洋画)	小 笠 美 華	75
修了制作 (日本画)	石 股 昭	76
修了制作 (立体造形)	谷 口 嘉 彦	77
	富 松 留 幹	
	中 川 賀 照	

## I. 専攻科の概要

### (1) 教育目的

短期大学卒業者に対して、精深な程度において造形美術に関する事項を教授し、その研究を指導して、造形美術の専門家や作家としての能力を最大限に発揮できる人材を育成することを目的とする。

### (2) 専攻科の沿革

昭和 58 年 4 月 1 日 専攻科美術専攻設置（1 年制・入学定員 10 人）

平成 6 年 4 月 1 日 専攻科美術専攻設置（2 年制・入学定員 20 人・1 年制廃止）

平成 8 年 4 月 1 日 学位授与機構認定

平成 27 年 4 月 1 日 教育課程改善・学則変更

### (3) 入学資格

本学の専攻科に入学することのできる者は、次の各号の 1 に該当する者で、造形美術を専攻する資質があるものとする。

- 1 短期大学を卒業した者
- 2 外国において、学校教育における 14 年（または 15 年）の課程を修了した者
- 3 その他、本学において短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

### (4) 専攻科の教育方針

短期大学 2 年間の一般教養と、美術に関する専門的な知識や技術の基盤の上に、さらに精深で中身の充実した「ほんもの」の造形美術に関する特別の事項を教授し、その研究を指導する。

教育指導においては、特に主体的・意欲的に自己のテーマに取り組んで思考し、行動し、研究し、制作して、自己の可能性を十分発揮するように努める。また、多彩な造形活動を通して芸術の今日的な課題である人間存在にかかわる深いものを追求し、自ら生きる喜びを体験して、独創的な発想と豊かな感性を養う。

### (5) 教育課程の編成方針

- ① 短期大学 2 年間の一般教養と造形美術に関する専門的教養を基盤として、より精深な造形美術に関する知識と、高度な技術や幅広い専門教育を修得するための教育課程を編成する。
- ② 専門教育については次の 5 群の科目を開設する。
  - A 群 美術史に関する科目
  - B 群 美術教養特論に関する科目
  - C 群 専攻演習・専攻実習に関する科目（学位取得希望者は必修）
  - D 群 実技演習・実技実習に関する科目
  - E 群 進級・修了に関する科目
- ③ 日本文化発祥の地である当地は、日本文化を学ぶ者にとって極めて重要な土地である。したがって、「美術史」や「美術教養特論」等の科目内容において、日本美術史・西洋美術史等の学習と併せて大和の文化研究及び大和の古代美術史を深く研究する。
- ④ 専攻演習及び専攻実習に関する科目の学習内容は、絵画（洋画・日本画）と立体造形の部門とする。なお、学位取得希望者はこれを必修とする。
- ⑤ 実技演習及び実技実習に関する科目の学習内容は、専攻演習・専攻実習の学習内容以外の内容・分野の科目とし、今日的な美術素養の深化・充実を図るものとする。
- ⑥ 国際交流教育に取り組むとともに、国内における美術関係展覧会の見学や出展、学外連携事業などを積極的に実施して、専攻科の教育の充実を図る。

※本専攻科を修了した者で、所定の単位を修得した者は、学位授与機構が行う学士の学位授与を申請できる。

(6) 専攻科の教育課程

群	年次等 科目	年次	年次	計	一般専攻生	学位専攻生 (学位取得要件)		備考
		I	II					
A	日本美術史	4		4	1 2 単位 修得	1 2 単位 修得		
	西洋美術史 美学・芸術学	4	4	4				
B	美術教養特論 I ・美学美術史 I ・美学美術史 II	2 (2) (2)		2	2 単位 以上修得	2 単位 以上修得		
	美術教養特論 II ・考古学概論 I ・考古学概論 II ・芸術学		2 (2) (2)	2 (2) (2)				
C	専攻演習 I	6		6	/	1 2 単位 以上修得	4 8 単位 以上 修得	洋画 日本画 立体造形 から選択
	専攻演習 II		6	6				
	専攻演習 III		6	6				
	専攻実習 I	4		4	4 8 単位 以上 修得	1 6 単位 修得	(D群 以外で)	学位取得の 希望のない 者は、C群に 替えて、D群 から選択履修 も可(洋画・ 日本画・デザ イン・陶芸・ 染織・クラフト から選択)
専攻実習 II	4		4					
専攻実習 III		4	4					
専攻実習 IV		4	4					
D	実技演習 I	6		6	1 2 単位 以上修得	学位取得単位 にはならない が、実技演習 II・III・IV・ VII、実技実習 II・III・IV・ VI・VII・VIII は、選択して 履修・修得 できる。		
	実技演習 II	4		4				
	実技演習 III	4		4				
	実技演習 IV	4		4				
	実技演習 V		6	6				
	実技演習 VI		6	6				
	実技演習 VII		4	4				
	実技実習 I	4		4	1 6 単位 以上修得			
実技実習 II	4		4					
実技実習 III	3		3					
実技実習 IV	3		3					
実技実習 V		4	4					
実技実習 VI		4	4					
実技実習 VII		3	3					
実技実習 VIII		3	3					
E	進級制作	3		3	6 単位 修得	6 単位 修得		
	修了制作		3	3				

- A、E群は必修。加えて学位授与申請希望者は、C群の実習科目は必修であり、D群も可能な範囲で履修することが望ましい。また、学位を希望しない学生は、専攻実習 I、IIを実技実習 I、IIで、また専攻実習 III、IVを実技実習 V、VIで替えることができる。

○ **C群科目（学位取得要件科目C群）**

専攻演習Ⅰ	洋画制作Ⅰ	日本画描写Ⅰ・Ⅱ	立体造形演習Ⅰ
専攻演習Ⅱ	油彩制作Ⅰ	日本画描写Ⅳ・Ⅴ	立体造形演習Ⅱ
専攻演習Ⅲ	油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ(デッサン)	日本画描写Ⅶ・Ⅷ	立体造形演習Ⅲ
専攻実習Ⅰ	洋画制作Ⅲ	日本画制作Ⅱ・Ⅲ	立体造形実習Ⅰ
専攻実習Ⅱ	洋画制作Ⅸ（古典技法）	日本画制作Ⅶ	立体造形実習Ⅱ
専攻実習Ⅲ	油彩制作Ⅲ	日本画制作Ⅷ・Ⅸ	立体造形実習Ⅲ
専攻実習Ⅳ	油彩制作Ⅸ（古典技法）	日本画制作Ⅻ・Ⅼ	立体造形実習Ⅳ

《C群》

科目名	科目設定の趣旨及び授業概要
専攻演習Ⅰ	芸術表現における「絵画」「立体造形」の理論や技法を学び、自己のアートマインド（芸術性）を追究する。
専攻演習Ⅱ	身近に存在するさまざまな芸術表現のモチーフ（対象）に関心を向け、表現の多様性を学ぶ。
専攻演習Ⅲ	いろいろな表現活動の研究を通して、造形表現の本質を修得させる。
専攻実習Ⅰ	自己のテーマを芸術的な観点から吟味させ、最も適切なモチーフを選定し、様々な表現要素を用いて制作できるようにする。
専攻実習Ⅱ	各自の個性に応じたテーマを選択させ、表現内容と表現活動が自分の中で一致するよう研究を深め、完成度の高い作品表現に結びつける。
専攻実習Ⅲ	広い視野と高度な視点に立って、各自の独自性が表現されるよう、多様な表現材料を使って、完成度の高い作品を制作する。
専攻実習Ⅳ	今までに学んだ芸術理論や表現方法等の修得度を確認し、独自の創作活動を通じて個性豊かな芸術性に富んだ作品を制作する。

○ **選択履修科目（専攻科教育課程のD群）**

(a) **洋画系専門科目**

実技演習Ⅰ（洋画制作Ⅰ）	実技演習Ⅱ（洋画制作Ⅳ・洋画制作Ⅴ）
実技演習Ⅲ（洋画制作Ⅵ）	実技演習Ⅳ（洋画制作Ⅹ（古典技法）・洋画制作Ⅷ（デッサン））
実技演習Ⅴ（油彩制作Ⅰ）	実技演習Ⅵ（油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ（デッサン））
実技演習Ⅶ（油彩制作Ⅳ・油彩制作Ⅵ（自主制作））	
実技実習Ⅰ（洋画制作Ⅲ）	実技実習Ⅱ（洋画制作Ⅸ（古典技法））
実技実習Ⅲ（洋画制作Ⅱ（版画））	実技実習Ⅳ（洋画制作Ⅶ）
実技実習Ⅴ（油彩制作Ⅲ）	実技実習Ⅵ（油彩制作Ⅸ（古典技法））
実技実習Ⅶ（油彩制作Ⅴ）	実技実習Ⅷ（油彩制作Ⅱ（版画）・油彩制作Ⅹ（古典技法））

※実技実習Ⅷの油彩制作Ⅹにはレポート1単位を含む。

(b) **日本画系専門科目**

実技演習Ⅰ（日本画描写Ⅰ・Ⅱ）	実技演習Ⅱ（模写Ⅰ・作家研究）
実技演習Ⅲ（模写Ⅱ）	実技演習Ⅴ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）
実技演習Ⅵ（日本画描写Ⅶ・Ⅷ）	実技演習Ⅶ（日本画描写Ⅵ）

実技実習Ⅰ（日本画制作Ⅱ・Ⅲ）	実技実習Ⅱ（日本画制作Ⅶ）
実技実習Ⅲ（日本画制作Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）	実技実習Ⅳ（日本画制作Ⅵ）
実技実習Ⅴ（日本画制作Ⅷ・Ⅸ）	実技実習Ⅵ（日本画制作Ⅺ・Ⅻ）
実技実習Ⅶ（日本画制作Ⅻ・Ⅹ・Ⅺ）	

### (c) デザイン系専門科目

実技演習Ⅰ（映像Ⅰ）	実技演習Ⅱ（映像Ⅱ）
実技演習Ⅲ（デザインプロジェクトⅠ）	実技演習Ⅳ（表現）
実技演習Ⅴ（映像Ⅲ）	実技演習Ⅵ（クリエイティブ研究Ⅱ）
実技演習Ⅶ（映像Ⅳ）	
実技実習Ⅰ（テーマ研究Ⅰ）	実技実習Ⅱ（ソーシャルデザインⅠ）
実技実習Ⅲ（ソーシャルデザインⅡ）	実技実習Ⅳ（クリエイティブ研究Ⅰ）
実技実習Ⅴ（テーマ研究Ⅱ）	実技実習Ⅵ（ソーシャルデザインⅢ）
実技実習Ⅶ（デザインプロジェクトⅡ）	実技実習Ⅷ（ソーシャルデザインⅣ）

### (d) 陶芸系専門科目

実技演習Ⅰ（制作Ⅰ・Ⅴ）	実技演習Ⅱ（制作Ⅲ）
実技演習Ⅲ（制作Ⅶ）	実技演習Ⅳ（制作Ⅸ）
実技演習Ⅴ（制作Ⅰ・Ⅴ①）	実技演習Ⅵ（制作Ⅲ・Ⅴ②）
実技演習Ⅶ（制作Ⅶ）	
実技実習Ⅰ（制作Ⅱ・Ⅵ①）	実技実習Ⅱ（制作Ⅳ・Ⅵ②）
実技実習Ⅲ（制作Ⅷ）	実技実習Ⅳ（制作Ⅹ）
実技実習Ⅴ（制作Ⅱ・Ⅳ）	実技実習Ⅵ（制作Ⅵ・Ⅸ）
実技実習Ⅶ（制作Ⅷ）	実技実習Ⅷ（制作Ⅹ）

### (e) 染織系専門科目

実技演習Ⅰ（制作Ⅱ・Ⅴ）	実技演習Ⅱ（制作Ⅰ）
実技演習Ⅲ（制作Ⅲ）	実技演習Ⅳ（制作Ⅳ）
実技演習Ⅴ（制作Ⅰ・Ⅱ）	実技演習Ⅵ（制作Ⅲ・Ⅵ）
実技演習Ⅶ（制作Ⅳ）	
実技実習Ⅰ（制作Ⅵ・Ⅷ）	実技実習Ⅱ（制作Ⅶ・Ⅸ）
実技実習Ⅲ（制作Ⅹ）	実技実習Ⅳ（制作Ⅺ）
実技実習Ⅴ（制作Ⅴ・Ⅷ）	実技実習Ⅵ（制作Ⅸ・Ⅹ）
実技実習Ⅶ（制作Ⅶ）	実技実習Ⅷ（制作Ⅺ）

### (f) クラフト(工芸)デザイン系専門科目

実技演習Ⅰ（制作ⅠA）	実技演習Ⅱ（専攻造形演習Ⅰ）
実技演習Ⅲ（制作ⅠB）	実技演習Ⅳ（制作ⅡA）
実技演習Ⅴ（制作ⅤB・ⅥB）	実技演習Ⅵ（制作ⅣA・ⅤA）
実技演習Ⅶ（専攻造形演習Ⅱ）	
実技実習Ⅰ（制作ⅡB・ⅢB）	実技実習Ⅱ（専攻造形実習Ⅰ・制作ⅢA）
実技実習Ⅲ（造形実習Ⅰ）	実技実習Ⅳ（制作ⅣB）
実技実習Ⅴ（制作ⅦB・ⅧA①）	実技実習Ⅵ（制作ⅧB・ⅧA②）
実技実習Ⅶ（専攻造形実習Ⅱ）	実技実習Ⅷ（造形実習Ⅱ）

## 《D群》

科目名	科目設定の趣旨及び授業概要
実技演習Ⅰ	表現のモチーフとなる対象を正確に観察することができ、かつ理解を深めることで、自己の表現が十分に発揮できるようにする。
実技演習Ⅱ	身近にある様々な造形メディアを研究することにより、自己の表現領域が広がり、表現形態も多様化するようにする。
実技演習Ⅲ	専攻するメディアの特性と可能性を追求して、自己表現の支持体として修得できるようにする。
実技演習Ⅳ	作品に込めたコンセプトやメッセージを社会に向け強く発信できるようにプレゼンテーション能力を高める。
実技演習Ⅴ	造形作品と社会の関わりを理解して、アクションの必然性と重要性を学習し演習する。
実技演習Ⅵ	制作した作品を通して社会とコミュニケーションが取れるように、様々な方法と手段を研究する。
実技演習Ⅶ	自己の表現について到達目標と授業計画に基づいて、高い完成度で造形表現できるようにする。
実技実習Ⅰ	モチーフ（主題）となる対象物に広く関心を向けて、スケッチ、デッサンやデザインなどの表現方法の創意工夫により、客観的観察力に基づく描写能力の向上を図る。
実技実習Ⅱ	表現のテーマ設定や可能性を研究して、メディアを通してイメージの具現化を実習する。
実技実習Ⅲ	造形表現のための技法とメディア技術力の練磨、より高次元な技術の習得を目指して実習する。
実技実習Ⅳ	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。
実技実習Ⅴ	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。
実技実習Ⅵ	美術工芸作品に関心を向け研究することより、自身が目指すべき個性の指針が発見できるようにする。
実技実習Ⅶ	造形表現の領域における自己の確立と個性の表出がいかに社会とかかわっているのかを追求する。
実技実習Ⅷ	自己の到達目標を超えた次元での完成を体感することで得られる達成感を目指して実習する。

(7) 専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

① 洋画系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	洋画制作Ⅰ	6		6	
	洋画制作Ⅳ・Ⅴ	4		4	
	洋画制作Ⅵ	4		4	
	洋画制作Ⅹ (古典技法)	2		2	
	洋画制作Ⅷ (デッサン)	2		2	
	油彩制作Ⅰ		6	6	
	油彩制作Ⅶ		4	4	
	油彩制作Ⅷ (デッサン)		2	2	
	油彩制作Ⅳ・Ⅵ (自主制作)		4	4	
	洋画制作Ⅲ	4		4	
	洋画制作Ⅸ (古典技法)	4		4	
	洋画制作Ⅱ (版画)	3		3	
	洋画制作Ⅶ	3		3	
	油彩制作Ⅲ		4	4	
	油彩制作Ⅸ (古典技法)		4	4	
	油彩制作Ⅴ		3	3	
	油彩制作Ⅱ (版画)		1	1	
油彩制作Ⅹ (古典技法)		2	2		
※古典技法にはレポート1単位含む					

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

② 日本画系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
	描写Ⅰ	4		4	
描写Ⅱ	2		2		
作家研究	2		2		
模写Ⅰ	2		2		
模写Ⅱ	4		4		
描写Ⅳ		4	4		
描写Ⅴ		2	2		
描写Ⅵ		4	4		
描写Ⅶ		2	2		
描写Ⅷ		4	4		
D	制作Ⅰ	1		1	
	制作Ⅱ	3		3	
	制作Ⅲ	1		1	
	制作Ⅳ	1		1	
	制作Ⅴ	1		1	
	制作Ⅵ	3		3	
	制作Ⅶ	4		4	
	制作Ⅷ		3	3	
	制作Ⅸ		1	1	
	制作Ⅹ		1	1	
	制作Ⅺ		1	1	
	制作Ⅻ		3	3	
	制作Ⅼ		1	1	
	制作Ⅽ		1	1	

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

③ デザイン系

群	科目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	映像Ⅰ	6		6	
	映像Ⅱ	4		4	
	デザインプロジェクトⅠ	4		4	
	表現	4		4	
	映像Ⅲ		6	6	
	クリエイティブ研究Ⅱ		6	6	
	映像Ⅳ		4	4	
	テーマ研究Ⅰ	4		4	
	ソーシャルデザインⅠ	4		4	
	ソーシャルデザインⅡ	3		3	
	クリエイティブ研究Ⅰ	3		3	
	テーマ研究Ⅱ		4	4	
	ソーシャルデザインⅢ		4	4	
	デザインプロジェクトⅡ		3	3	
ソーシャルデザインⅣ		3	3		

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

④ 陶芸系

群	科 目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作Ⅰ	4		4	
	制作Ⅲ	4		4	
	制作Ⅴ	2		2	
	制作Ⅶ	4		4	
	制作Ⅸ	4		4	
	制作Ⅰ		4	4	
	制作Ⅲ		4	4	
	制作Ⅴ		4	4	
	制作Ⅶ		4	4	
	制作Ⅱ	3		3	
	制作Ⅳ	3		3	
	制作Ⅵ	3		3	
	制作Ⅷ	3		3	
	制作Ⅹ	3		3	
	制作Ⅱ		1	1	
	制作Ⅳ		3	3	
	制作Ⅵ		1	1	
	制作Ⅷ		3	3	
	制作Ⅸ		3	3	
	制作Ⅹ		3	3	

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

⑤ 染織系

群	科目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作Ⅰ	4		4	
	制作Ⅱ	4		4	
	制作Ⅲ	4		4	
	制作Ⅳ	4		4	
	制作Ⅴ	2		2	
	制作Ⅰ		4	4	
	制作Ⅱ		2	2	
	制作Ⅲ		4	4	
	制作Ⅳ		4	4	
	制作Ⅵ		2	2	
	制作Ⅵ	1		1	
	制作Ⅶ	1		1	
	制作Ⅷ	3		3	
	制作Ⅸ	3		3	
	制作Ⅹ	3		3	
	制作Ⅺ	3		3	
	制作Ⅴ		3	3	
	制作Ⅶ		3	3	
	制作Ⅷ		1	1	
	制作Ⅸ		1	1	
	制作Ⅹ		3	3	
制作Ⅺ		3	3		

専攻科の教育課程 各系列C・D群科目

⑥ クラフト（工芸）デザイン系

群	科目	単位数 1年次	単位数 2年次	計	備考
C	専攻演習Ⅰ	6		6	
	専攻演習Ⅱ		6	6	
	専攻演習Ⅲ		6	6	
	専攻実習Ⅰ	4		4	
	専攻実習Ⅱ	4		4	
	専攻実習Ⅲ		4	4	
	専攻実習Ⅳ		4	4	
D	制作ⅠA	6		6	
	専攻造形演習Ⅰ	4		4	
	制作ⅠB	4		4	
	制作ⅡA	4		4	
	制作ⅣA		4	4	
	制作ⅤA		2	2	
	制作ⅤB		4	4	
	制作ⅥB		2	2	
	専攻造形演習Ⅱ		4	4	
	制作ⅡB	1		1	
	専攻造形実習Ⅰ	1		1	
	造形実習Ⅰ	3		3	
	制作ⅢA	3		3	
	制作ⅢB	3		3	
	制作ⅣB	3		3	
	制作ⅥA		3	3	
	制作ⅦB		3	3	
制作ⅧB		3	3		
専攻造形実習Ⅱ		3	3		
造形実習Ⅱ		3	3		

II.専攻科の授業科目概要 A群科目 ■専攻理論

専攻科1年次 講義 4単位 通年

科目名	日本美術史	担当者	宮嶋幸子
授業概要	本講義では平安後期以降の絵画を中心として日本美術の歴史を概観することにより、古代から1930年代にかけての日本美術史の基礎概念を学習します。		
到達目標	1 各時代の代表的な作品や作家を分析することで、それらの特質を説明できる。 2 それぞれの美術が成立した歴史的経緯を具体例をあげて説明できる。 3 過去の美術が現在の美術に与えた影響について具体的に説明できる。 4 「芸術」「美術」「美術史」という枠組みが日本に導入された経緯を説明できる。		
授業計画	<p><b>前期</b></p> 1 オリエンテーション 美術史の対象と日本美術史の時代区分 2 平安時代 やまと絵1:「唐絵」と「やまと絵」の違いについて 3 平安時代 やまと絵2:みやびを描く「源氏物語絵巻」 4 平安時代 やまと絵3:コトを描く「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵詞」 5 鎌倉時代 肖像画:個人を描くということ 6 鎌倉時代 初期水墨画:禅僧と中国文化 7 室町時代 水墨画:詩画軸 理想郷に遊ぶ 8 室町時代 水墨画:雪舟 日本水墨画の大成 9 室町時代 狩野派の登場:和漢融合 10 桃山時代 金碧障壁画:狩野永徳 権力と絵画の関係 11 桃山時代 近世の芸能と工芸:わびとさび 12 桃山時代 近世初期風俗画:「ひと」への関心 13 江戸時代 寛文美人図と浮世絵の誕生 14 江戸時代 浮世絵:モードを描く 15 江戸時代 江戸時代の狩野派と粉本主義 16 江戸時代 若冲と応挙:江戸時代における「写生」 <p><b>後期</b></p> 1 江戸時代 琳派:絵画と工芸の融合 2 江戸時代 文人画派:「文人画」と「南画」の差異 3 江戸時代 文人画派の展開:関西南画と関東南画 4 江戸時代 江戸時代のやまと絵:土佐派と復古大和絵 5 江戸時代 洋風画:実証主義の流行と写実的表現 6 明治時代 「洋画」の誕生:美術教育と美術学校 7 明治時代 「日本画」の誕生:フェノロサが日本絵画に与えた影響 8 明治時代 「新しい日本画」:フェノロサと岡倉天心が目指したもの 9 明治時代 白馬会:洋画における旧派と新派 10 明治時代 歴史画の流行:国民国家と美術 11 明治時代 「美術」の誕生と展覧会 12 大正時代 フェウザン会:個性を主張する画家たち 13 大正時代 グラフィックデザイン:杉浦非水にみる西洋近代ポスター芸術の受容 14 昭和時代 戦前の前衛美術:1930年協会と独立美術協会 15 昭和時代 戦争と美術:藤田嗣治 16 まとめに代えて 文化を守る 文化財保護に関する法律の制定背景		
教科書 テキスト 参考書	教科書は特に指定しません。講義中にレジュメを配布します。参考書は適宜講義中に紹介します。		
評価の方法	授業への取り組み方(提出物・受講態度など)50% 学期末試験50%、以上を総合的に判断して評価します。なお出席回数が規定を満たしていない場合は不可とします。		
実務経験	美術館および博物館該当施設での伝統工芸担当の学芸員経験を生かして、日本の美術史について講義する。		
備考	講義内容の性質上、スライドやビデオ等の視覚資料を中心とした講義になります。		

科目名	西洋美術史	担当者	高 藤 大 樹
授業概要	この授業では、古代から20世紀前半までの西洋美術史の基本的な流れを一年間かけて扱います。美術には、時代を超えて共通する伝統的な主題や造形上の約束事がある一方で、同時に、時代や地域ごとに異なる様式(独自の型)もあり、一見すると難解かもしれません。授業では、「西洋美術で規範とされてきた型や主題とは何か?」そして「その規範がどのように乗り越えられていったのか?」の二点をテーマとし、それらを分かりやすく解説していきます。代表的な様式や作品を広く紹介しますので、未知の作品と出合っても方向がわかるような自分の地図を作っていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋美術史の基本的な流れを理解し、説明することができる。(期末レポート試験で確認)</li> <li>各時代における代表的な様式や主題を説明することができる。(期末レポート試験と毎回の小レポートで確認)</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス / 古代西洋における美術の世界</li> <li>古代の美術(1) ギリシア美術</li> <li>古代の美術(2) ローマ美術</li> <li>中世キリスト教美術(1) 初期キリスト教美術 と ビザンティン美術</li> <li>中世キリスト教美術(2) ロマネスク (中世教会建築の様式1)</li> <li>中世キリスト教美術(3) ゴシック (中世教会建築の様式2)</li> <li>中世末期の美術</li> <li>ルネサンス美術(1) 古典復興の時代</li> <li>ルネサンス美術(2) 盛期ルネサンス</li> <li>ルネサンスの伝播と変容(1) 北方ルネサンスと宗教改革</li> <li>ルネサンスの変容と伝播(2) マニエリスム</li> <li>バロック美術(1) 対抗宗教改革とイタリアの状況</li> <li>バロック美術(2) 各国の状況</li> <li>アカデミーと古典主義</li> <li>17世紀オランダ絵画</li> <li>まとめ</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス / 「伝統」から「革新」の時代(近代)へ</li> <li>ロココ美術</li> <li>革命期の美術(1) 新古典主義</li> <li>革命期の美術(2) ロマン主義</li> <li>自然主義とリアリズム</li> <li>印象主義</li> <li>後期印象主義</li> <li>世紀末芸術</li> <li>フォーヴィスム</li> <li>キュビスム</li> <li>ドイツ表現主義</li> <li>デ・スタイルとロシア・アヴァンギャルド</li> <li>ダダイズム</li> <li>シュルレアリスム</li> <li>エコール・ド・パリ</li> <li>まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験(70%)と、授業に取り組む姿勢(毎回の小レポート、30%)で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史の基本的な流れと代表的な作品名や作家名、主題や造形表現にたいする基礎知識が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美学・芸術学		担当者	石 黒 義 昭
授業概要	<p>美学 Ästhetik は 18 世紀に成立した学問分野で、人間の認識・芸術・美の三つの問題を問うてきました。最近では、原義にもどって感性論と訳されることがふえています。芸術学 Kunstwissenschaft は 19 世紀に誕生しました。ただ、芸術の問題は美学の問いにふくまれているため、通常、芸術学は美学の一部と見なされます。</p> <p>自然の美しさや芸術作品の素晴らしさに多く接し、自分の経験をもとに、美しさや美しさのヴァリエーション、そして普遍的な美について積極的に考えてください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義で紹介した文献に目をとおり、美学の問いを共有することができる。</li> <li>2. 講義で紹介したものの見方（美意識）を簡潔にまとめることができる。</li> <li>3. 「美学すること」を制作に活かす態度を身につけることができる。</li> </ol>			
授業計画	<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 美学と感性論、そして芸術学。21 世紀における感性論</li> <li>3 古代ギリシア（教室にプロジェクターやスピーカーなどの設備があれば、映像資料を紹介しながら全般的な説明をします。設備がなければ、口頭での説明にとどまります）</li> <li>4 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— 存在への問い</li> <li>5 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— 正義。善と美</li> <li>6 Platon, B.C. 427 - B.C. 347 —— イデア論</li> <li>7 Aristoteles, B.C. 384 - B.C. 322 —— 存在への問い。質料形相論など</li> <li>8 Aristoteles, B.C. 384 - B.C. 322 —— 『詩学』</li> <li>9 Augustinus, 354 - 430 —— 『告白』</li> <li>10 Augustinus, 354 - 430 —— 『真の宗教 De vera religione』</li> <li>11 Augustinus, 354 - 430 —— 『音楽論 De Musica』</li> <li>12 Thomas Aquinas, ca. 1225 - 1274 —— 『神学大全』</li> <li>13 ルネサンス期①</li> <li>14 ルネサンス期②</li> <li>15 Descartes, 1596 - 1650 —— 『方法叙説』</li> <li>16 試験</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期のまとめ</li> <li>2 Leibniz, 1646 - 1716</li> <li>3 Leibniz, 1646 - 1716</li> <li>4 啓蒙の諸相。感性的認識 scientia cognitionis sensitivae は学として問うことができるか</li> <li>5 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 詩論</li> <li>6 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 『美学 [感性論] aesthetica』</li> <li>7 Baumgarten, 1714 - 1762 —— 『形而上学』</li> <li>8 Kant, 1724 - 1804 —— 存在論と認識論（『純粹理性批判』）</li> <li>9 Kant, 1724 - 1804 —— カントと神経科学から見た認識、美しさの経験</li> <li>10 Kant, 1724 - 1804 —— 趣味と無関心性（『判断力批判』）</li> <li>11 Kant, 1724 - 1804 —— 趣味と無概念性（『判断力批判』）</li> <li>12 Kant, 1724 - 1804 —— 芸術と天才（『判断力批判』）</li> <li>13 現象学① —— なにかが存在していることと、美しさや芸術の関係</li> <li>14 現象学②</li> <li>15 現象学③</li> <li>16 試験</li> </ol>			
教科書 テキスト 参考書	<p>資料はメールに PDF ファイルを添付して配布します。指定された期間に初回に空メールを送ってください。アドレス：ishiguro-s@natagei.ac.jp</p>			
評価の方法	<p>試験（70%）＋授業中に書いてもらうコメント（30%）。</p>			
実務経験	<p>大阪市立大学、京都市立芸術大学、大阪大学、立命館大学大学院などで、美学や芸術学、西洋美術史の講義と演習を担当してきた経験を活かし、哲学的視点と歴史学的視点から芸術について考えてもらう。</p>			
備考	<p>授業計画は学生の様子を見ながら変更することがあります。哲学は美しさや「芸術」と密接に関係しています。多くの「作品」に接し、自然の美しさにも目をむけてください。西欧の伝統だけでなく、日本のものや東洋のものにも親しんでいってください。</p>			

## B 群科目 ■ 専攻理論

専攻科 1 年次 講義 2 単位 前期

科目名	美術教養特論 I 美学・美術史 (I)	担当者	高藤 大樹
授業概要	美術館である作品と向かい合ったとき、街中の景観や車窓からの風景をふと目にしたとき、ソファでマンガやスマートフォンの画面を眺めるとき。私たちは日常生活の随所で美的＝感性的なものに触れ魅了されています。美的なものの魅力について客観的に考え、自身の言葉で説明できるようになること。これがこの授業の目標です。授業では、特に西洋における美や芸術の思想を中心に、著名な概念・トピック・キーワードを時代ごとに取り上げていきます。それらを通じて、自分が感じ、伝えたい魅力を語るための知識と思考を深めましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美や芸術と関わる基本的な概念・トピックとそれらの内容を、自らの言葉で説明することができる。(期末レポート試験で確認)</li> <li>・美や芸術をめぐる様々な立場にたいして自らの意見を述べるすることができる。(期末レポート試験と毎回の小レポートで確認)</li> </ul>		
授業計画	<p>前期 (受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合がある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス / 狭義の美と広義の美</li> <li>2 プラトンの美学 (美のアイデア/真実と嘘)</li> <li>3 アリストテレスの美学 (ミメシス)</li> <li>4 中世における美の思想と教会堂建築の表現 (神の美)</li> <li>5 ルネサンス運動 (人間精神と自然科学/芸術家の誕生)</li> <li>6 ルネサンス以後の動向 (美的効果/色彩論争/ピクチャレスク)</li> <li>7 ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』(古典美 vs. パレンテュルソス)</li> <li>8 バウムガルテンの美学 (感性)</li> <li>9 カントの美学(1) (趣味判断/天才)</li> <li>10 カントの美学(2) (崇高)</li> <li>11 ロマン主義の展開 (自由な創造/ロマン)</li> <li>12 シラーの美学 (美的教育/遊戯)</li> <li>13 ヘーゲルの美学 (芸術の終焉)</li> <li>14 美的な領域の広がり(1) (醜・グロテスク)</li> <li>15 美的な領域の広がり(2) (滑稽・笑い)</li> <li>16 まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験 (70%) と、授業に取り組む姿勢 (毎回の小レポート、30%) で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史に関する基本知識と共に、芸術を巡る思想の基礎が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅰ 美学・美術史(Ⅱ)	担当者	高藤 大樹
授業概要	美術館である作品と向かい合ったとき、街中の景観や車窓からの風景をふと目にしたとき、ソファでマンガやスマートフォンの画面を眺めるとき。私たちは日常生活の随所で美的＝感性的なものに触れ魅了されています。美的なものの魅力について客観的に考え、自身の言葉で説明できるようになること。これがこの授業の目標です。授業では、特に西洋における美や芸術の思想を中心に、著名な概念・トピック・キーワードを時代ごとに取り上げていきます。それらを通じて、自分が感じ、伝えたい魅力を語るための知識と思考を深めましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美や芸術と関わる基本的な概念・トピックとそれらの内容を、自らの言葉で説明することができる。(期末レポート試験で確認)</li> <li>・美や芸術をめぐる様々な立場にたいして自らの意見を述べるすることができる。(期末レポート試験と毎回の小レポートで確認)</li> </ul>		
授業計画	<p>後期 (受講生の理解の度合いに合わせて内容を多少変更する場合がある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス / 近代(モダン)世界と大衆の発生</li> <li>2 ボードレールの美学と世紀末芸術(美の表面性/装飾)</li> <li>3 ニーチェの美学(美的仮象)</li> <li>4 モダニズムの芸術観(1)(抽象)</li> <li>5 モダニズムの芸術観(2)(モダン建築/機能主義)</li> <li>6 大衆社会と近代工芸・デザインの思想(1)(アーツ・アンド・クラフツ運動/応用芸術)</li> <li>7 大衆社会と近代工芸・デザインの思想(2)(バウハウス/日本の民藝運動)</li> <li>8 美術館と展示の思想(展示)</li> <li>9 アヴァンギャルドの思想(1)(デュシャンの《泉》)</li> <li>10 アヴァンギャルドの思想(2)(シュルレアリスムと近代精神病理学)</li> <li>11 大衆文化と複製技術時代の芸術(1)(アウラとショック)</li> <li>12 大衆文化と複製技術時代の芸術(2)(写真/映画)</li> <li>13 現代「アート」の諸相(1)(ポップ・アート)</li> <li>14 現代「アート」の諸相(2)(日常と芸術の越境)</li> <li>15 ポストモダニズムとシミュラクルの誘惑(ポストモダン建築/現代消費社会の文化)</li> <li>16 まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントを配布します。		
評価の方法	期末レポート試験(70%)と、授業に取り組む姿勢(毎回の小レポート、30%)で判定します。		
実務経験	大学における教育職および研究職の経験を生かして、西洋美術史に関する基本知識と共に、芸術を巡る思想の基礎が身に付く指導をする。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 考古学概論（Ⅰ）	担当者	ト 部 行 弘
授業概要	地上に残る遺跡や発掘調査で明らかになった資料をもとに、旧石器時代から飛鳥、奈良時代までの日本の歴史を描いてみたい。特に日本の古代史の中心地であった大和（奈良）の遺跡に重点を置いて考える。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献資料では知ることのできない古代人の生活や思想を遺跡や遺物を通して考えることができる。</li> <li>・過去を考察することによって、現代人が進むべき将来について論じることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 考古学とはどんな学問か？（1）－何のために学ぶのか？</li> <li>2 考古学とはどんな学問か？（2）－資料と研究方法</li> <li>3 考古学とはどんな学問か？（3）－時代区分と世界の考古学</li> <li>4 旧石器時代－日本列島に人間が住み始めたころ</li> <li>5 縄文時代－1万年もの持続可能社会</li> <li>6 弥生時代（1）－稲作がもたらしたもの</li> <li>7 弥生時代（2）－クニから国へ</li> <li>8 古墳時代（1）－前方後円墳の出現と国家の誕生</li> <li>9 古墳時代（2）－倭の五王とその時代</li> <li>10 古墳時代（3）－藤ノ木古墳の諸問題（1）</li> <li>11 古墳時代（4）－藤ノ木古墳の諸問題（2）</li> <li>12 古墳時代（5）－構内の埴輪展示作品見学</li> <li>13 飛鳥時代（1）－飛鳥の諸宮</li> <li>14 飛鳥時代（2）－飛鳥の古墳</li> <li>15 飛鳥時代（3）－飛鳥の寺院</li> <li>16 まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	プリント資料を配布。		
評価の方法	授業へ取り組む姿勢やレポートなどで評価する。		
実務経験	博物館学芸員などの実務経験や報告書、論文などの執筆経験を生かして授業を行う。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 考古学概論(Ⅱ)	担当者	ト 部 行 弘
授 業 概 要	「シルクロードの考古学」というテーマでユーラシア大陸を東西に結ぶ交易の道の歴史と、その道を通じて実際にもたらされた文物について詳しく検討する。奈良はシルクロードの終着点といわれ、正倉院や法隆寺などに遺された文物はそれを物語るが、その文化的背景について学ぶ。		
到達目標	私たちが日本古来の文化と思っているものの中には、外来文化が基礎となっているものが多い。それらの文化を俯瞰的にとらえることにより、あらためて日本文化の特質を論じることができる。		
授 業 計 画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 シルクローとは何か？</li> <li>2 シルクロードの風土と歴史(1)－漢代の西域経営</li> <li>3 シルクロードの風土と歴史(2)－仏教の成立と伝来</li> <li>4 シルクロードの風土と歴史(3)－玄奘の入竺</li> <li>5 シルクロードの探検史(1)－ロシア、イギリス、ヘディン</li> <li>6 シルクロードの探検史(2)－スタイン、ドイツ、大谷探検隊</li> <li>7 シルクロードの遺跡(1)－石窟寺院(1)</li> <li>8 シルクロードの遺跡(2)－石窟寺院(2)</li> <li>9 シルクロードの遺跡(3)－スキタイ、パジリク、匈奴の遺跡</li> <li>10 シルクロードでもたらされたもの(1)－ガラス(1)</li> <li>11 シルクロードでもたらされたもの(2)－ガラス(2)</li> <li>12 シルクロードでもたらされたもの(3)－陶磁器(1)</li> <li>13 シルクロードでもたらされたもの(4)－陶磁器(2)</li> <li>14 シルクロードでもたらされたもの(5)－陶磁器(3)</li> <li>15 シルクロードでもたらされたもの(6)－金属器</li> <li>16 まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	プリント資料を配布。		
評価の 方法	授業へ取り組む姿勢やレポートなどで評価する。		
実務経験	博物館学芸員などの実務経験や報告書、論文などの執筆経験を生かして授業を行う。		
備考			

科目名	美術教養特論Ⅱ 芸術学	担当者	折居 耕 拓
授業概要	この授業では、「芸術」という言葉について考察します。芸術という言葉の意味は、西洋の歴史においてどのように変化してきたのでしょうか。芸術は、ある時代には「模倣するもの」としてとらえられましたが、別の時代には「創造的なもの」としてとらえられました。このような芸術が意味するものの歴史的な変遷を、いくつかの用語にそくしてだどります。またその変遷を、具体的な芸術作品の事例を検討しながら学んでいきましょう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「芸術」が意味するものを、いくつかの基礎的な用語に関連づけることができる。</li> <li>2. 「芸術」が意味するものを念頭に、作品を描写・既出することができる。</li> <li>3. 「芸術」が意味するものについて、その歴史的な変遷を説明することができる。</li> </ol>		
授業計画	<p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 美</li> <li>3 模倣</li> <li>4 かたち</li> <li>5 制作</li> <li>6 共感</li> <li>7 古典</li> <li>8 第7回までの講義のまとめ</li> <li>9 芸術</li> <li>10 創造</li> <li>11 作品</li> <li>12 表現</li> <li>13 解釈</li> <li>14 近代</li> <li>15 感性</li> <li>16 学期末試験</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	資料を配布します。適宜、参考書を紹介します。		
評価の方法	各回の講義のあとに提出していただくコメントシートの内容(70%)、学期末試験 (30%)。		
実務経験			
備考	授業の進行にそくして、内容を変更する可能性があります。		

科目名	専攻演習Ⅰ（洋画制作Ⅰ）	担当者	平田 泰延・小笠 美華
授業概要	前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。 後期は自身のテーマに基づき、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていけるよう技術と内容を指導する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。</li> <li>・ 社会における絵画の現在について考えることが出来る。</li> <li>・ 制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 風景 油彩 10号～15号</li> <li>3 人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 30号</li> <li>5 人体 女性 立ちポーズ</li> <li>6 人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号①</li> <li>8 講評会</li> <li>9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号②</li> <li>10 人体 男性 動作 デッサン</li> <li>11 人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>12 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号①</li> <li>13 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号②</li> <li>14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③</li> <li>15 合同講評会</li> <li>16 自画像 10号</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作につながる作品 30号程度</li> <li>2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>7 講評会</li> <li>8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>10 制作Ⅰ.5 完成</li> <li>11 制作Ⅱ.1 油彩 50号以上一点以上</li> <li>12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>13 合同講評会</li> <li>14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習</li> <li>15 制作Ⅱ.4 完成</li> <li>16 審査 判定</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	参考作品、作家、書籍を随時紹介。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	高等学校美術科教員としての実務経験や、コンクールでの受賞、個展、グループ展での発表という作家としての活動経験を活かし、絵画表現におけるモノのとらえ方や基本を指導する。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅰ（日本画描写Ⅰ・Ⅱ）	担当者	辻野 宗一・広岡 真彩彦			
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。					
到達目標	・題材となる写生作品を完成させる。 ・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。 ・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。					
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; vertical-align: top;"> <p><b>前期</b></p> <p>1 制作1 / オリエンテーション・小下図</p> <p>2 制作1 / 小下図・草稿</p> <p>3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>4 制作1 / 下塗り</p> <p>5 制作1 / 水干彩色1</p> <p>6 制作1 / 水干彩色2</p> <p>7 制作1 / 岩絵具彩色1</p> <p>8 制作1 / 岩絵具彩色2</p> <p>9 制作1 / 岩絵具彩色3</p> <p>10 合評会</p> <p>11 制作2 / 小下図・草稿</p> <p>12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>14 制作2 / 下塗り</p> <p>15 制作2 / 水干彩色1</p> <p>16 合評会</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 制作2 / 水干彩色2</p> <p>2 制作2 / 岩絵具彩色1</p> <p>3 制作2 / 岩絵具彩色2</p> <p>4 制作2 / 岩絵具彩色3</p> <p>5 合評会</p> <p>6 制作3 / 小下図・草稿</p> <p>7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>9 制作3 / 下塗り</p> <p>10 制作3 / 水干彩色1</p> <p>11 制作3 / 水干彩色2</p> <p>12 制作3 / 岩絵具彩色1</p> <p>13 制作3 / 岩絵具彩色2</p> <p>14 制作3 / 岩絵具彩色3</p> <p>15 制作3 / 岩絵具彩色4</p> <p>16 合評会</p> </td> <td style="width: 45%; vertical-align: top;"> <p>制作1 / 題材研究発表</p> <p>人物制作 (80号) / 裸婦デッサン1</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン2</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン3</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン4</p> <p>人物制作 / 草稿</p> <p>人物制作 / 草稿・小下図</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作2 / 題材研究発表</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究3</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究4</p> <p>制作3 / 題材研究発表</p> <p>学外講師による特別講義</p> </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> </table>			<p><b>前期</b></p> <p>1 制作1 / オリエンテーション・小下図</p> <p>2 制作1 / 小下図・草稿</p> <p>3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>4 制作1 / 下塗り</p> <p>5 制作1 / 水干彩色1</p> <p>6 制作1 / 水干彩色2</p> <p>7 制作1 / 岩絵具彩色1</p> <p>8 制作1 / 岩絵具彩色2</p> <p>9 制作1 / 岩絵具彩色3</p> <p>10 合評会</p> <p>11 制作2 / 小下図・草稿</p> <p>12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>14 制作2 / 下塗り</p> <p>15 制作2 / 水干彩色1</p> <p>16 合評会</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 制作2 / 水干彩色2</p> <p>2 制作2 / 岩絵具彩色1</p> <p>3 制作2 / 岩絵具彩色2</p> <p>4 制作2 / 岩絵具彩色3</p> <p>5 合評会</p> <p>6 制作3 / 小下図・草稿</p> <p>7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>9 制作3 / 下塗り</p> <p>10 制作3 / 水干彩色1</p> <p>11 制作3 / 水干彩色2</p> <p>12 制作3 / 岩絵具彩色1</p> <p>13 制作3 / 岩絵具彩色2</p> <p>14 制作3 / 岩絵具彩色3</p> <p>15 制作3 / 岩絵具彩色4</p> <p>16 合評会</p>	<p>制作1 / 題材研究発表</p> <p>人物制作 (80号) / 裸婦デッサン1</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン2</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン3</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン4</p> <p>人物制作 / 草稿</p> <p>人物制作 / 草稿・小下図</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作2 / 題材研究発表</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究3</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究4</p> <p>制作3 / 題材研究発表</p> <p>学外講師による特別講義</p>	
<p><b>前期</b></p> <p>1 制作1 / オリエンテーション・小下図</p> <p>2 制作1 / 小下図・草稿</p> <p>3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>4 制作1 / 下塗り</p> <p>5 制作1 / 水干彩色1</p> <p>6 制作1 / 水干彩色2</p> <p>7 制作1 / 岩絵具彩色1</p> <p>8 制作1 / 岩絵具彩色2</p> <p>9 制作1 / 岩絵具彩色3</p> <p>10 合評会</p> <p>11 制作2 / 小下図・草稿</p> <p>12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>14 制作2 / 下塗り</p> <p>15 制作2 / 水干彩色1</p> <p>16 合評会</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 制作2 / 水干彩色2</p> <p>2 制作2 / 岩絵具彩色1</p> <p>3 制作2 / 岩絵具彩色2</p> <p>4 制作2 / 岩絵具彩色3</p> <p>5 合評会</p> <p>6 制作3 / 小下図・草稿</p> <p>7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評</p> <p>8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>9 制作3 / 下塗り</p> <p>10 制作3 / 水干彩色1</p> <p>11 制作3 / 水干彩色2</p> <p>12 制作3 / 岩絵具彩色1</p> <p>13 制作3 / 岩絵具彩色2</p> <p>14 制作3 / 岩絵具彩色3</p> <p>15 制作3 / 岩絵具彩色4</p> <p>16 合評会</p>	<p>制作1 / 題材研究発表</p> <p>人物制作 (80号) / 裸婦デッサン1</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン2</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン3</p> <p>人物制作 / 裸婦デッサン4</p> <p>人物制作 / 草稿</p> <p>人物制作 / 草稿・小下図</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作2 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作2 / 題材研究発表</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究1</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究2</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究3</p> <p>制作3 / 取材 (写生) とテーマの研究4</p> <p>制作3 / 題材研究発表</p> <p>学外講師による特別講義</p>					
教科書 テキスト 参考書	美術全集					
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。					
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。					
備考						

科目名	専攻演習 I (立体造形演習 I)	担当者	谷口 嘉彦・富松 暖
授業概要	視覚造形表現上の平面2次元空間と立体3次元空間における表現上の変遷を理解し、空間内の立体造形表現の可能性について、様々な仮説命題を元にした、立体と空間表現方法の検証を通して課題作品制作を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体と空間認識について基礎的な概念を説明できる。</li> <li>・表現テーマにおける対立概念を明快に設定できる。</li> <li>・表現テーマのコンセプトを明確に立案できる。</li> <li>・メッセージを発信する姿勢を持って作品表現することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <p>1 教科ガイダンス 立体と平面の概念認識についての説明</p> <p>2 work 1 ①点と空間表現の可能性について アイデア展開</p> <p>3 ②点素材による空間演出 (底面積 30 cm<sup>2</sup> 空間への点の位置表現)</p> <p>4 ③点素材による空間演出 完成 講評</p> <p>5 work 2 ①限定空間内での直線による演出表現アイデアスケッチによるアイデア展開</p> <p>6 ②制作進行 1</p> <p>7 ③制作進行 2</p> <p>8 ④制作進行 3</p> <p>9 ⑤作品完成 撮影 プレゼンテーション 講評</p> <p>10 work 3 ①平面か曲面への理解</p> <p>11 ②2次曲面による空間演出 平面(紙)から2次曲面生成を試作</p> <p>12 ③2次曲面による壁面演出のアイデア展開</p> <p>13 ④2次曲面構造物の制作</p> <p>14 ⑤制作進行 1</p> <p>15 ⑥制作進行 2</p> <p>16 ⑦完成 撮影 プレゼンテーション 講評</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 work 4 ①見えないモノを表現するには</p> <p>2 ②虚と実の存在についての考察</p> <p>3 ③実在物の型取りによる虚の存在について、反転・対立概念について考察</p> <p>4 ④反転・対立概念について考察</p> <p>5 ⑤反転・対立概念について考察</p> <p>6 ⑥日常生活内の実在物と虚の存在の関係について考察</p> <p>7 ⑦自然物・人工物の中から各自設定の対立概念設定による表現の可能性を探る</p> <p>8 ⑧各自設定の対立概念の魅力を試作 1</p> <p>9 ⑨各自設定の対立概念の魅力を試作 2</p> <p>10 ⑩プレゼンボードの制作 1</p> <p>11 ⑪プレゼンボードの制作 2</p> <p>12 ⑫プレゼンボードへのまとめ完成</p> <p>13 ⑬プレゼンテーション 講評</p> <p>14 ⑭進級制作指導 1</p> <p>15 ⑮進級制作指導 2</p> <p>16 ⑯進級制作指導 3</p>		
	教科書 テキスト 参考書	必要参考資料をプリント配布及び参考画像映写。	
評価の方法	概念形成への理解度の深さ。表現コンセプト立案能力。表現方法の展開能力と作品完成度に対する総合評価。		
実務経験	長年の大学教育現場と立体造形制作者としての実務経験を生かして、コンセプト表現に必要な、様々な素材についての知識・加工技術を通じて表現方法を指導する。		
備考	授業には各自ノート PC 持参。		

科目名	専攻実習Ⅰ（洋画制作Ⅲ）	担当者	高橋 顕児・片野 まん
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。                  後期は自身のテーマに基づき、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていきけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。</li> <li>・ 社会における絵画の現在について考えることができる。</li> <li>・ 制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 風景 油彩 10号～15号</li> <li>3 人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 30号</li> <li>5 人体 女性 立ちポーズ</li> <li>6 人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号①</li> <li>8 講評会</li> <li>9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号②</li> <li>10 人体 男性 動作 デッサン</li> <li>11 人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>12 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号①</li> <li>13 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号②</li> <li>14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③</li> <li>15 合同講評会</li> <li>16 自画像 10号</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作につながる作品 30号程度</li> <li>2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>7 講評会</li> <li>8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>10 制作Ⅰ.5 完成</li> <li>11 制作Ⅱ.1 油彩 50号以上一点以上</li> <li>12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>13 合同講評会</li> <li>14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習</li> <li>15 制作Ⅱ.4 完成</li> <li>16 審査 判定</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	参考作品、作家、書籍を随時紹介。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅰ（日本画制作Ⅱ・Ⅲ）	担当者	大槻 睦子・石股 昭
授業概要	<p>自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自の表現へと発展させる。</p> <p>自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追及し、高度な表現へと深まるよう制作する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。</li> <li>・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。</li> <li>・自らの作品について客観的に理解し述べるができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <p>1 制作1／オリエンテーション・小下図</p> <p>2 制作1／小下図・草稿・小下図研究発表</p> <p>3 制作1／パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>4 制作1／下塗り</p> <p>5 制作1／水干彩色1</p> <p>6 制作1／水干彩色2</p> <p>7 制作1／岩絵具彩色1 人物制作（80号）／草稿</p> <p>8 制作1／岩絵具彩色2 人物制作／草稿・小下図</p> <p>9 制作1／岩絵具彩色3 人物制作／パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>10 合評会 人物制作／下塗り</p> <p>11 制作2／小下図・草稿 人物制作／水干彩色1</p> <p>12 制作2／小下図・草稿・小下図研究発表 人物制作／水干彩色2</p> <p>13 制作2／パネル制作・水張り・骨がき 人物制作／岩絵の具彩色1</p> <p>14 制作2／下塗り 人物制作／岩絵の具彩色2</p> <p>15 制作2／水干彩色1 人物制作／岩絵の具彩色3</p> <p>16 合評会 合評会</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 制作2／水干彩色2</p> <p>2 制作2／岩絵具彩色1</p> <p>3 制作2／岩絵具彩色2</p> <p>4 制作2／岩絵具彩色3</p> <p>5 合評会</p> <p>6 制作3／小下図・草稿</p> <p>7 制作3／小下図・草稿・小下図研究発表</p> <p>8 制作3／パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>9 制作3／下塗り</p> <p>10 制作3／水干彩色1</p> <p>11 制作3／水干彩色2</p> <p>12 制作3／岩絵具彩色1</p> <p>13 制作3／岩絵具彩色2</p> <p>14 制作3／岩絵具彩色3</p> <p>15 制作3／岩絵具彩色4</p> <p>16 合評会</p>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅰ（立体造形実習Ⅰ）	担当者	富松 留幹・富松 暖
授業概要	立体表現に関わる“支持体”の特性を理解して、モデリング・カービング技法等により自己のイメージを作品として具現化する過程を体感する。		
到達目標	立体造形の知識と技術を修得して、表現の多様性を理解し作品を制作する事ができる。		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要の説明と導入</li> <li>2 課題④ 自然石 or 果物をモチーフとして“分割とデザイン”をテーマに制作する</li> <li>3 観察とアイデアスケッチ/デザインチェック</li> <li>4 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）①</li> <li>5 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）②</li> <li>6 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）③</li> <li>7 フォルモ粘土による制作（ミクストメディア可）①</li> <li>8 フォルモ粘土による制作（ミクストメディア可）②</li> <li>9 フォルモ粘土による制作（ミクストメディア可）③</li> <li>10 フォルモ粘土による制作（ミクストメディア可）④</li> <li>11 彩色作業（細密描写）①</li> <li>12 彩色作業（細密描写）②</li> <li>13 作品講評</li> <li>14 課題⑤ 機能美の追及/“手”をモデリング制作する</li> <li>15 観察とアイデアスケッチ/デザインチェック</li> <li>16 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）①</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）②</li> <li>2 木片、針金にて芯型を制作</li> <li>3 フォルモ粘土等による制作①</li> <li>4 フォルモ粘土等による制作②</li> <li>5 フォルモ粘土等による制作③</li> <li>6 フォルモ粘土等による制作④</li> <li>7 フォルモ粘土等による制作⑤</li> <li>8 作品講評</li> <li>9 課題⑥ オブジェ“有機形態”を制作する</li> <li>10 アイデアスケッチ/デザインチェック</li> <li>11 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）①</li> <li>12 プレゼンシートを作成（A3 サイズ）②</li> <li>13 自由素材による制作①</li> <li>14 自由素材による制作②</li> <li>15 自由素材による制作③</li> <li>16 作品講評</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	授業実習態度と提出作品の独創性・完成度による総合評価で行う。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を指導する。独創的発想と支持体の研究を実践する。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅱ（洋画制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小笠美華
授業概要	<p>テンペラ画で主に模写を中心に制作する。支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。</p> <p>また、制作過程において、技法の特性を理解しながら技術を習得し、技法の歴史を学ぶなかで作家、作品の研究から自身の作品の表現の幅を広げる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技法の特性と表現が密接に関係していることについて理解する。</li> <li>・技法の特性を理解しながら、特性を生かした作品を完成させる。</li> <li>・習得した知識や技術を各自の作品制作の展開につなげていける。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 模写作品選定</li> <li>2 支持体製作① パネル</li> <li>3 支持体製作② 前膠</li> <li>4 支持体製作③ 布張り</li> <li>5 石膏地塗り①</li> <li>6 石膏地塗り②</li> <li>7 地塗り調整、削り、磨き</li> <li>8 下絵転写</li> <li>9 デッサン</li> <li>10 箔下とのこ塗り</li> <li>11 とのこ磨き</li> <li>12 金箔置き①</li> <li>13 金箔置き②</li> <li>14 金箔磨き、装飾</li> <li>15 メディウム作り、下絵</li> <li>16 描画1 顔、肌の下色</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 描画2 立体感描出</li> <li>2 描画3 肌色①</li> <li>3 描画4 肌色②</li> <li>4 描画5 肌色③</li> <li>5 描画6 肌色④</li> <li>6 描画7 顔の細部の描出</li> <li>7 描画8 背景を描く</li> <li>8 描画9 頭部、毛髪</li> <li>9 描画10 被り物、衣</li> <li>10 描画11 装飾品、模様</li> <li>11 描画12 全体のバランス①</li> <li>12 描画13 全体のバランス②</li> <li>13 描画14 黄金背景の装飾①</li> <li>14 描画15 黄金背景の装飾②</li> <li>15 描画16 完成へ</li> <li>16 16 まとめ、評価</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	<p>参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）</p>		
評価の方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。</p>		
備考	<p>デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。</p>		

科目名	専攻実習Ⅱ（日本画制作Ⅶ）	担当者	広岡 真彩彦
授業概要	<p>自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の制作に合わせ、自己の設定したテーマを端的に表す小品作品の制作を行う。大作作品の表現でつかみづらい全体の構成力や独自の表現の可能性を探る。表現技術においても小品に応じた工夫が必要である。</p> <p>また、日本画材料の特性を生かした新しい表現の可能性を探る。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。</li> <li>・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。</li> <li>・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 作家作品研究1</li> <li>3 作家作品研究2</li> <li>4 作家作品研究3</li> <li>5 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究1</li> <li>6 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究2</li> <li>7 研究発表</li> <li>8 小品制作（2点）／パネル制作</li> <li>9 小品制作／草稿</li> <li>10 小品制作／制作1</li> <li>11 小品制作／制作2</li> <li>12 小品制作／制作3・中間合評会</li> <li>13 小品制作／制作4</li> <li>14 小品制作／制作5</li> <li>15 小品制作／制作6</li> <li>16 合評会</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 画材研究1</li> <li>2 画材研究2</li> <li>3 画材研究3</li> <li>4 画材研究4</li> <li>5 画材研究合評会</li> <li>6 制作3／小下図</li> <li>7 制作3／小下図・草稿</li> <li>8 制作3／草稿・草稿合評</li> <li>9 制作3／パネル制作・水張り・転写</li> <li>10 制作3／水干下塗り</li> <li>11 制作3／水干彩色1</li> <li>12 制作3／水干彩色2</li> <li>13 制作3／岩絵の具彩色1</li> <li>14 制作3／岩絵の具彩色2</li> <li>15 制作3／岩絵の具彩色3</li> <li>16 合評会</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅱ（立体造形実習Ⅱ）	担当者	中 川 賀 照
授業概要	立体造形の多様な表現方法について、世界の彫刻の歴史から学ぶとともに、モデリング技法に重点を置き、古代から土偶や埴輪などに見られるテラコッタ技法を用いて人や動物、自然などの造形物から想起した立体造形を追求します。また、人物や静物から3Dスキャンしたデータを基にモデリングソフトによる造形の基礎を学習します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 彫刻技法の中のモデリング技法について、説明することができる。</li> <li>・ テラコッタの歴史や基礎的な技法を理解し、作品を作ることができる。</li> <li>・ 3Dスキャナや3Dプリンターを使ったデジタルデータによる造形を理解できる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ 世界と日本の彫刻</li> <li>2 ○ 彫刻の技法と素材</li> <li>3 ○ ブロンズ彫刻の修復保存</li> <li>4 ○ テラコッタ技法</li> <li>5 ○ 課題Ⅰ（動物をつくる）</li> <li>6     ・ エスキースの制作</li> <li>7     ・ 制作①</li> <li>8     ・ 制作②</li> <li>9     ・ 制作③</li> <li>10    ・ 制作④</li> <li>11    ・ 制作⑤</li> <li>12    ・ 乾燥</li> <li>13    ・ 焼成</li> <li>14    ・ 成型</li> <li>15    ・ 合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ 課題Ⅱ（人物や静物のスキャンデータを基にした造形）</li> <li>2     ・ 人物や静物のスキャン①</li> <li>3     ・ 人物や静物のスキャン②</li> <li>4     ・ 人物や静物のスキャン③</li> <li>5     ・ モデリングソフトによる加工①</li> <li>6     ・ モデリングソフトによる加工②</li> <li>7     ・ モデリングソフトによる加工③</li> <li>8     ・ 3Dプリント①</li> <li>9     ・ 3Dプリント②</li> <li>10    ・ モデリングソフトによる加工④</li> <li>11    ・ モデリングソフトによる加工⑤</li> <li>12    ・ 3Dプリント③</li> <li>13    ・ 成型①</li> <li>14    ・ 成型②</li> <li>15    ・ 合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントや資料を配布する。		
評価の方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などの総合的に評価する。		
実務経験	大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。		
備考	実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。		

C群科目 2回生 ■専攻演習・専攻実習  
 専攻科2年次 演習 6単位 通年

科目名	専攻演習Ⅱ（油彩制作Ⅰ）	担当者	平田 泰延・小笠 美華
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。          後期は自身のテーマに基づき、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。</li> <li>・社会における絵画の現在について考えることが出来る。</li> <li>・制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 風景 油彩 10号～15号</li> <li>3 人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号</li> <li>5 人体 女性 立ちポーズ</li> <li>6 人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号①</li> <li>8 講評会</li> <li>9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号②</li> <li>10 人体 男性 動作 デッサン</li> <li>11 人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>12 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号①</li> <li>13 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号②</li> <li>14 人体 二人 組みポーズ 油彩 30号③</li> <li>15 合同講評会</li> <li>16 自画像 10号</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作につながる作品 30号程度</li> <li>2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>7 講評会</li> <li>8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>10 制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>11 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>12 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>13 合同講評会</li> <li>14 制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>15 制作Ⅰ、Ⅱ 完成</li> <li>16 審査 判定</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	参考作品、作家、書籍を随時紹介。		
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	高等学校美術科教員としての実務経験や、コンクールでの受賞、個展、グループ展での発表という作家としての活動経験を活かし、絵画表現におけるモノのとらえ方や基本を指導する。		
備考			

科目名	専攻演習Ⅱ（日本画描写Ⅳ・Ⅴ）	担当者	中 尾 壽 男																																																																																																						
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。																																																																																																								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材となる写生作品を完成させる。</li> <li>・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。</li> <li>・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。</li> </ul>																																																																																																								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;"><b>前 期</b></td> <td style="width: 45%;"></td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>制作1 / オリエンテーション・小下図</td> <td>制作1 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>制作1 / 小下図・草稿</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td>明日香村写生1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>制作1 / 下塗り</td> <td>明日香村写生2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>制作1 / 水干彩色1</td> <td>明日香村写生3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>制作1 / 水干彩色2</td> <td>写生合評会・作品展</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>制作1 / 岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>制作1 / 岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>制作1 / 岩絵具彩色3</td> <td>制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>合評会</td> <td>制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>制作2 / 小下図・草稿</td> <td>制作2 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>制作2 / 小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>制作2 / 下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>制作2 / 水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>合評会</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><b>後 期</b></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>制作2 / 水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>制作2 / 岩絵具彩色1</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>制作2 / 岩絵具彩色2</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>制作2 / 岩絵具彩色3</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>合評会</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>制作3 / 小下図・草稿</td> <td>制作3 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>制作3 / 小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>制作3 / 下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>制作3 / 水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>制作3 / 水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>制作3 / 岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>制作3 / 岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>制作3 / 岩絵具彩色3</td> <td>学外講師による特別講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>制作3 / 岩絵具彩色4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>合評会</td> <td></td> </tr> </table>			<b>前 期</b>			1	制作1 / オリエンテーション・小下図	制作1 / 題材研究発表	2	制作1 / 小下図・草稿		3	制作1 / パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1	4	制作1 / 下塗り	明日香村写生2	5	制作1 / 水干彩色1	明日香村写生3	6	制作1 / 水干彩色2	写生合評会・作品展	7	制作1 / 岩絵具彩色1		8	制作1 / 岩絵具彩色2		9	制作1 / 岩絵具彩色3	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1	10	合評会	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2	11	制作2 / 小下図・草稿	制作2 / 題材研究発表	12	制作2 / 小下図・草稿・草稿合評		13	制作2 / パネル制作・水張り・骨がき		14	制作2 / 下塗り		15	制作2 / 水干彩色1		16	合評会		<b>後 期</b>			1	制作2 / 水干彩色2		2	制作2 / 岩絵具彩色1	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1	3	制作2 / 岩絵具彩色2	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2	4	制作2 / 岩絵具彩色3	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3	5	合評会	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4	6	制作3 / 小下図・草稿	制作3 / 題材研究発表	7	制作3 / 小下図・草稿・草稿合評		8	制作3 / パネル制作・水張り・骨がき		9	制作3 / 下塗り		10	制作3 / 水干彩色1		11	制作3 / 水干彩色2		12	制作3 / 岩絵具彩色1		13	制作3 / 岩絵具彩色2		14	制作3 / 岩絵具彩色3	学外講師による特別講義	15	制作3 / 岩絵具彩色4		16	合評会	
<b>前 期</b>																																																																																																									
1	制作1 / オリエンテーション・小下図	制作1 / 題材研究発表																																																																																																							
2	制作1 / 小下図・草稿																																																																																																								
3	制作1 / パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1																																																																																																							
4	制作1 / 下塗り	明日香村写生2																																																																																																							
5	制作1 / 水干彩色1	明日香村写生3																																																																																																							
6	制作1 / 水干彩色2	写生合評会・作品展																																																																																																							
7	制作1 / 岩絵具彩色1																																																																																																								
8	制作1 / 岩絵具彩色2																																																																																																								
9	制作1 / 岩絵具彩色3	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																							
10	合評会	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																							
11	制作2 / 小下図・草稿	制作2 / 題材研究発表																																																																																																							
12	制作2 / 小下図・草稿・草稿合評																																																																																																								
13	制作2 / パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																								
14	制作2 / 下塗り																																																																																																								
15	制作2 / 水干彩色1																																																																																																								
16	合評会																																																																																																								
<b>後 期</b>																																																																																																									
1	制作2 / 水干彩色2																																																																																																								
2	制作2 / 岩絵具彩色1	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																							
3	制作2 / 岩絵具彩色2	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																							
4	制作2 / 岩絵具彩色3	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3																																																																																																							
5	合評会	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4																																																																																																							
6	制作3 / 小下図・草稿	制作3 / 題材研究発表																																																																																																							
7	制作3 / 小下図・草稿・草稿合評																																																																																																								
8	制作3 / パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																								
9	制作3 / 下塗り																																																																																																								
10	制作3 / 水干彩色1																																																																																																								
11	制作3 / 水干彩色2																																																																																																								
12	制作3 / 岩絵具彩色1																																																																																																								
13	制作3 / 岩絵具彩色2																																																																																																								
14	制作3 / 岩絵具彩色3	学外講師による特別講義																																																																																																							
15	制作3 / 岩絵具彩色4																																																																																																								
16	合評会																																																																																																								
教科書 テキスト 参考書	美術全集																																																																																																								
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。																																																																																																								
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。																																																																																																								
備考																																																																																																									

科目名	専攻演習Ⅱ（立体造形演習Ⅱ）	担当者	谷口 嘉彦・富松 暖
授業概要	現代美術作品例の解説を通じて、アート表現者（発信者）と鑑賞者（受信者）の関係を理解し、表現者としてのアイデア発想を展開するための授業とします。ここでは様々な対立概念を設定した発想を元にして、表現行為を明確にするコンセプトワーク（概念形成）を通じて学び課題作品制作を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対立概念におけるアート命題を発見することができる。</li> <li>・表現テーマのコンセプトを明確に立案できる。</li> <li>・表現方法として実在とデジタル双方で行うことができる。</li> <li>・表現メッセージを発信する姿勢で制作ができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <p>1 work 1 ①日常概念からの発想転換について マルセル・デュシャン「泉」等を例に説明</p> <p>2 ②対立概念からの発想表現 対立概念の魅力説明後、対立概念についてブレインストーミング</p> <p>3 ③各自の対立概念についての考えをまとめる</p> <p>4 work 2 ①「座れない椅子」について モノの機能とアンチ機能の関係について考察</p> <p>5 ②「座れない椅子」は椅子ではないのか？ 日常概念とアートについて</p> <p>6 ③「座れない椅子」の面白さについてブレイン・ストーミング</p> <p>7 ④各自の「座れない椅子」の魅力について考察 コンセプト設定</p> <p>8 ⑤各自の「座れない椅子」アイデアスケッチ展開</p> <p>9 ⑥スケールモデル制作 概念転換に関する表現コンセプトについて</p> <p>10 ⑦スケールモデル制作 素材・加工技術の紹介</p> <p>11 ⑧スケールモデル制作進行1</p> <p>12 ⑨スケールモデル制作進行2</p> <p>13 ⑩スケールモデル制作進行3</p> <p>14 ⑪スケールモデル制作進行4</p> <p>15 ⑫スケールモデル制作進行5</p> <p>16 ⑬完成・プレゼンテーション・講評</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 work 3 ①空間の魅力演出 様々な空間演出例についての解説</p> <p>2 ②空間造形表現における表現テーマとコンセプトワークの考察について</p> <p>3 ③表現テーマの設定とコンセプト検討1</p> <p>4 ④表現テーマの設定とコンセプト検討2</p> <p>5 ⑤表現テーマの設定とコンセプト検討3</p> <p>6 ⑥使用素材の選択・加工技術の検討</p> <p>7 ⑦アイデア展開1</p> <p>8 ⑧アイデア展開2</p> <p>9 ⑨プレゼンテーションボード制作1</p> <p>10 ⑩プレゼンテーションボード制作2</p> <p>11 ⑪プレゼンテーションボード制作3</p> <p>12 ⑫スケールモデ制作1</p> <p>13 ⑬スケールモデ制作2</p> <p>14 ⑭スケールモデ制作3</p> <p>15 ⑮スケールモデ制作4</p> <p>16 ⑯プレゼンテーション・講評</p>		
教科書 テキスト 参考書	必要参考資料をプリント配布及び参考画像映写。		
評価の方法	概念形成への理解度の深さ。表現コンセプト立案能力。発想力と表現方法の展開及び作品完成度に対する総合評価。		
実務経験	長年の大学教育現場と立体造形制作者としての実務経験を生かして、コンセプト表現に必要な、様々な素材についての知識・加工技術を通じて表現方法を指導する。		
備考	授業には各自ノートPC 持参。		

科目名	専攻演習Ⅲ (油彩制作Ⅶ・油彩制作Ⅷ (デッサン))	担当者	小笠美華		
授業概要	<p>油彩制作Ⅶ：前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。後期は自身のテーマに基づき、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。</p> <p>油彩制作Ⅷ (デッサン)：細密デッサン、石膏デッサン、静物デッサンで観察力と描出力を高める。またスケッチ、ドローイングを重ねることで自身の視点の発見を試みる。学年末には課題から得たことを糧にデッサン作品を制作し絵画表現の可能性を広げる。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象に適した表現を試みることが出来る。</li> <li>絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。</li> <li>社会における絵画の現在について考えることが出来る。</li> </ul>				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>風景 油彩 10号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ</li> <li>人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号①</li> <li>講評会</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 男性 動作 デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号①</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③</li> <li>合同講評会</li> <li>自画像 10号</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>制作につながる作品 30号程度</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>講評会</li> <li>制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>合同講評会</li> <li>制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅰ、Ⅱ 完成</li> <li>審査 判定</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>スケジュール説明、デッサンについて</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など①</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など②</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など③</li> <li>講評</li> <li>課題② 「静物」①</li> <li>課題② 「静物」②</li> <li>課題② 「静物」③</li> <li>課題② 「静物」④</li> <li>課題② 「静物」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン①</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン②</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン③</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン④</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑤</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑥</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑦</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑧</li> <li>講評</li> <li>課題④ 「イメージの集積」①</li> <li>課題④ 「イメージの集積」②</li> <li>課題④ 「イメージの集積」③</li> <li>課題④ 「イメージの集積」④</li> <li>課題④ 「イメージの集積」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題⑤デッサン作品制作①</li> <li>課題⑤デッサン作品制作②</li> <li>課題⑤デッサン作品制作③</li> <li>課題⑤デッサン作品制作④</li> <li>課題⑤デッサン作品制作⑤</li> <li>講評</li> </ol> </td> </tr> </table>			<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>風景 油彩 10号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ</li> <li>人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号①</li> <li>講評会</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 男性 動作 デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号①</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③</li> <li>合同講評会</li> <li>自画像 10号</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>制作につながる作品 30号程度</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>講評会</li> <li>制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>合同講評会</li> <li>制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅰ、Ⅱ 完成</li> <li>審査 判定</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スケジュール説明、デッサンについて</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など①</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など②</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など③</li> <li>講評</li> <li>課題② 「静物」①</li> <li>課題② 「静物」②</li> <li>課題② 「静物」③</li> <li>課題② 「静物」④</li> <li>課題② 「静物」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン①</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン②</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン③</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン④</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑤</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑥</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑦</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑧</li> <li>講評</li> <li>課題④ 「イメージの集積」①</li> <li>課題④ 「イメージの集積」②</li> <li>課題④ 「イメージの集積」③</li> <li>課題④ 「イメージの集積」④</li> <li>課題④ 「イメージの集積」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題⑤デッサン作品制作①</li> <li>課題⑤デッサン作品制作②</li> <li>課題⑤デッサン作品制作③</li> <li>課題⑤デッサン作品制作④</li> <li>課題⑤デッサン作品制作⑤</li> <li>講評</li> </ol>
<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>風景 油彩 10号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号</li> <li>人体 女性 立ちポーズ</li> <li>人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号①</li> <li>講評会</li> <li>人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 男性 動作 デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号①</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号②</li> <li>人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③</li> <li>合同講評会</li> <li>自画像 10号</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>制作につながる作品 30号程度</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>講評会</li> <li>制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>合同講評会</li> <li>制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>制作Ⅰ、Ⅱ 完成</li> <li>審査 判定</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スケジュール説明、デッサンについて</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など①</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など②</li> <li>課題① 細密に描く 昆虫、植物など③</li> <li>講評</li> <li>課題② 「静物」①</li> <li>課題② 「静物」②</li> <li>課題② 「静物」③</li> <li>課題② 「静物」④</li> <li>課題② 「静物」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン①</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン②</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン③</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン④</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑤</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑥</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑦</li> <li>課題③ 「石膏像 頭像」 木炭デッサン⑧</li> <li>講評</li> <li>課題④ 「イメージの集積」①</li> <li>課題④ 「イメージの集積」②</li> <li>課題④ 「イメージの集積」③</li> <li>課題④ 「イメージの集積」④</li> <li>課題④ 「イメージの集積」⑤</li> <li>講評</li> <li>課題⑤デッサン作品制作①</li> <li>課題⑤デッサン作品制作②</li> <li>課題⑤デッサン作品制作③</li> <li>課題⑤デッサン作品制作④</li> <li>課題⑤デッサン作品制作⑤</li> <li>講評</li> </ol>				
教科書 テキスト 参考書	随時紹介。				
評価の方法	授業に取り組む姿勢と、作品による評価。				
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。				
備考					

科目名	専攻演習Ⅲ（日本画描写Ⅶ・Ⅷ）	担当者	辻野 宗一・広岡 真彩彦																																																																																																			
授業概要	自らの絵画テーマとなる題材の取材や研究を行う。日本画の造形表現を最も効果的に展開させるために写生を通して観察力や表現力を高めてほしい。 また、日本画制作と連動して画材研究や、特に岩絵具の持つ独特の美しさを生かした表現技法を研究する。																																																																																																					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材となる写生作品を完成させる。</li> <li>・絵画テーマについての研究を行い発表することができる。</li> <li>・日本画材の表現技法を研究し作品に表現することができる。</li> </ul>																																																																																																					
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;"><b>前期</b></td> <td style="width: 45%;">1 制作1 / オリエンテーション・小下図</td> <td style="width: 40%;">制作1 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 制作1 / 小下図・草稿</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td>明日香村写生1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4 制作1 / 下塗り</td> <td>明日香村写生2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 制作1 / 水干彩色1</td> <td>明日香村写生3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6 制作1 / 水干彩色2</td> <td>写生合評会・作品展</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7 制作1 / 岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>8 制作1 / 岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>9 制作1 / 岩絵具彩色3</td> <td>制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10 合評会</td> <td>制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11 制作2 / 小下図・草稿</td> <td>制作2 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>14 制作2 / 下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 制作2 / 水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>16 合評会</td> <td></td> </tr> <tr> <td><b>後期</b></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>1 制作2 / 水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 制作2 / 岩絵具彩色1</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 制作2 / 岩絵具彩色2</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4 制作2 / 岩絵具彩色3</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5 合評会</td> <td>制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6 制作3 / 小下図・草稿</td> <td>制作3 / 題材研究発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>9 制作3 / 下塗り</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>10 制作3 / 水干彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>11 制作3 / 水干彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>12 制作3 / 岩絵具彩色1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>13 制作3 / 岩絵具彩色2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>14 制作3 / 岩絵具彩色3</td> <td>学外講師による特別講義</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 制作3 / 岩絵具彩色4</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>16 合評会</td> <td></td> </tr> </table>			<b>前期</b>	1 制作1 / オリエンテーション・小下図	制作1 / 題材研究発表		2 制作1 / 小下図・草稿			3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1		4 制作1 / 下塗り	明日香村写生2		5 制作1 / 水干彩色1	明日香村写生3		6 制作1 / 水干彩色2	写生合評会・作品展		7 制作1 / 岩絵具彩色1			8 制作1 / 岩絵具彩色2			9 制作1 / 岩絵具彩色3	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1		10 合評会	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2		11 制作2 / 小下図・草稿	制作2 / 題材研究発表		12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評			13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき			14 制作2 / 下塗り			15 制作2 / 水干彩色1			16 合評会		<b>後期</b>				1 制作2 / 水干彩色2			2 制作2 / 岩絵具彩色1	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1		3 制作2 / 岩絵具彩色2	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2		4 制作2 / 岩絵具彩色3	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3		5 合評会	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4		6 制作3 / 小下図・草稿	制作3 / 題材研究発表		7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評			8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき			9 制作3 / 下塗り			10 制作3 / 水干彩色1			11 制作3 / 水干彩色2			12 制作3 / 岩絵具彩色1			13 制作3 / 岩絵具彩色2			14 制作3 / 岩絵具彩色3	学外講師による特別講義		15 制作3 / 岩絵具彩色4			16 合評会	
<b>前期</b>	1 制作1 / オリエンテーション・小下図	制作1 / 題材研究発表																																																																																																				
	2 制作1 / 小下図・草稿																																																																																																					
	3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき	明日香村写生1																																																																																																				
	4 制作1 / 下塗り	明日香村写生2																																																																																																				
	5 制作1 / 水干彩色1	明日香村写生3																																																																																																				
	6 制作1 / 水干彩色2	写生合評会・作品展																																																																																																				
	7 制作1 / 岩絵具彩色1																																																																																																					
	8 制作1 / 岩絵具彩色2																																																																																																					
	9 制作1 / 岩絵具彩色3	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																				
	10 合評会	制作2 / 取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																				
	11 制作2 / 小下図・草稿	制作2 / 題材研究発表																																																																																																				
	12 制作2 / 小下図・草稿・草稿合評																																																																																																					
	13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																					
	14 制作2 / 下塗り																																																																																																					
	15 制作2 / 水干彩色1																																																																																																					
	16 合評会																																																																																																					
<b>後期</b>																																																																																																						
	1 制作2 / 水干彩色2																																																																																																					
	2 制作2 / 岩絵具彩色1	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究1																																																																																																				
	3 制作2 / 岩絵具彩色2	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究2																																																																																																				
	4 制作2 / 岩絵具彩色3	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究3																																																																																																				
	5 合評会	制作3 / 取材（写生）とテーマの研究4																																																																																																				
	6 制作3 / 小下図・草稿	制作3 / 題材研究発表																																																																																																				
	7 制作3 / 小下図・草稿・草稿合評																																																																																																					
	8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき																																																																																																					
	9 制作3 / 下塗り																																																																																																					
	10 制作3 / 水干彩色1																																																																																																					
	11 制作3 / 水干彩色2																																																																																																					
	12 制作3 / 岩絵具彩色1																																																																																																					
	13 制作3 / 岩絵具彩色2																																																																																																					
	14 制作3 / 岩絵具彩色3	学外講師による特別講義																																																																																																				
	15 制作3 / 岩絵具彩色4																																																																																																					
	16 合評会																																																																																																					
教科書 テキスト 参考書	美術全集																																																																																																					
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価する。																																																																																																					
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、題材の選定から構図、多様な画材研究を通して表現力を高める指導を行う。																																																																																																					
備考																																																																																																						

科目名	専攻演習Ⅲ（立体造形演習Ⅲ）	担当者	中川 賀 照
授業概要	<p>本学3号館前のロダン作「青銅時代」の修復保存の実習を通じて、モデリング技法やその素材の一つであるブロンズ彫刻についての理解を深めます。また、3Dスキャナや3Dプリンターを用いたデジタルデータによる造形や、粘土等を用いたテラコッタ技法による造形等を組み合わせることにより、各自のテーマに応じた立体表現を追求していきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロンズ彫刻の簡単な保存修復ができる。</li> <li>・モデリング技法の中のテラコッタによる造形表現を理解し、説明することができる。</li> <li>・デジタルデータやテラコッタ技法を応用した作品を造形することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ モデリング技法とその素材</li> <li>2 ○ ブロンズ彫刻の修復保存①</li> <li>3   ブロンズ彫刻の修復保存②</li> <li>4 ○ 課題Ⅰ（テラコッタ造形）</li> <li>5     ・テーマの設定</li> <li>6     ・エスキース</li> <li>7     ・制作①</li> <li>8     ・制作②</li> <li>9     ・制作③</li> <li>10    ・制作④</li> <li>11    ・制作⑤</li> <li>12    ・乾燥</li> <li>13    ・焼成</li> <li>14    ・成型、彩色</li> <li>15    ・合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ 課題Ⅱ（デジタルデータやテラコッタによる自由造形）</li> <li>2     ・テーマの設定</li> <li>3     ・エスキース①</li> <li>4     ・エスキース②</li> <li>5     ・エスキース③</li> <li>6     ・エスキース④</li> <li>7     ・制作①</li> <li>8     ・制作②</li> <li>9     ・制作③</li> <li>10    ・制作④</li> <li>11    ・制作⑤</li> <li>12    ・乾燥</li> <li>13    ・焼成</li> <li>14    ・成型、彩色</li> <li>15    ・合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	<p>適宜、プリントや資料を配布する。</p>		
評価の方法	<p>発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などを総合的に評価する。</p>		
実務経験	<p>大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。</p>		
備考	<p>実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。</p>		

科目名	専攻実習Ⅲ（油彩制作Ⅲ）	担当者	高橋 顕児・片野 まん
授業概要	<p>前期は「人体」を中心にしっかり対象を描出していくことで画面を作り上げていく力を育てる。制作の過程で描画材料や技法の研究、作家、作品の研究を行い絵画の知識を広げていく。                      後期は自身のテーマに基づき、前期に習得した技術や知識を活かし、充実した作品制作を目指す。                      担当教員が個々に応じた指導を行い、学生が主体的に創造に関わっていただけるよう技術と内容を指導する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画についての知識を積極的に求めながら制作できる。</li> <li>・ 社会における絵画の現在について考えることができる。</li> <li>・ 制作計画を立て、自ら問題解決しながら作品を作っている。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 風景 油彩 10号</li> <li>3 人体 女性 立ちポーズ デッサン</li> <li>4 人体 女性 立ちポーズ 油彩 50号</li> <li>5 人体 女性 立ちポーズ</li> <li>6 人体 男性 固定ポーズ デッサン</li> <li>7 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号①</li> <li>8 講評会</li> <li>9 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号②</li> <li>10 人体 男性 動作 デッサン</li> <li>11 人体 二人 組みポーズ デッサン</li> <li>12 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号①</li> <li>13 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号②</li> <li>14 人体 二人 組みポーズ 油彩 50号③</li> <li>15 合同講評会</li> <li>16 自画像 10号</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作につながる作品 30号程度</li> <li>2 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>3 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>4 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ</li> <li>5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>7 講評会</li> <li>8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>10 制作Ⅱ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>11 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>12 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>13 合同講評会</li> <li>14 制作Ⅱ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>15 制作Ⅰ、Ⅱ 完成</li> <li>16 審査 判定</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	<p>参考作品、作家、書籍を随時紹介。</p>		
評価の方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や受賞歴など作家としての活動経験を活かし、描く対象を観察、把握して絵画表現していくことを具体的に指導する。</p>		
備考			

科目名	専攻実習Ⅲ（日本画制作Ⅷ・Ⅸ）	担当者	大槻 睦子・石股 昭
授業概要	<p>自己の設定したテーマを造形的な観点から吟味させ、そのテーマに基づく最も適切なモチーフを選定し独自の表現へと発展させる。</p> <p>自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の段階で、制作テーマの選定、画面の構成、色調等、今までに学習した表現技法を最大限駆使して、意図する内容を最も効果的に表現できているかをそれぞれ厳しく追及し、高度な表現へと深まるよう適切な指導を行い制作する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに基づく最も適切な表現を小下図を通して研究する。</li> <li>・表現技法や材料を生かした作品を完成させる。</li> <li>・自らの作品について客観的に理解し述べるができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <p>1 制作1 / オリエンテーション・小下図</p> <p>2 制作1 / 小下図・草稿・小下図研究発表</p> <p>3 制作1 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>4 制作1 / 下塗り</p> <p>5 制作1 / 水干彩色 1</p> <p>6 制作1 / 水干彩色 2</p> <p>7 制作1 / 岩絵具彩色 1</p> <p>8 制作1 / 岩絵具彩色 2</p> <p>9 制作1 / 岩絵具彩色 3</p> <p>10 合評会</p> <p>11 制作2 / 小下図・草稿</p> <p>12 制作2 / 小下図・草稿・小下図研究発表</p> <p>13 制作2 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>14 制作2 / 下塗り</p> <p>15 制作2 / 水干彩色 1</p> <p>16 合評会</p> <p><b>後期</b></p> <p>1 制作2 / 水干彩色 2</p> <p>2 制作2 / 岩絵具彩色 1</p> <p>3 制作2 / 岩絵具彩色 2</p> <p>4 制作2 / 岩絵具彩色 3</p> <p>5 合評会</p> <p>6 制作3 / 小下図・草稿</p> <p>7 制作3 / 小下図・草稿・小下図研究発表</p> <p>8 制作3 / パネル制作・水張り・骨がき</p> <p>9 制作3 / 下塗り</p> <p>10 制作3 / 水干彩色 1</p> <p>11 制作3 / 水干彩色 2</p> <p>12 制作3 / 岩絵具彩色 1</p> <p>13 制作3 / 岩絵具彩色 2</p> <p>14 制作3 / 岩絵具彩色 3</p> <p>15 制作3 / 岩絵具彩色 4</p> <p>16 合評会</p>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、作家の資質として必要な作品分析力と表現力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅲ（立体造形実習Ⅲ）	富松 留幹・富松 暖
授業概要	<p>専攻実習Ⅰ・Ⅱで修得した立体造形の知識や技術を駆使して、より高次元な課題作品の制作を実践する。</p> <p>素材研究を積極的に行い、ミクストメディアな造形にもチャレンジする。</p> <p>表現としての“具象”“抽象”について課題制作として実習する。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のイメージを立体造形として表現出来る。</li> <li>・様々な支持体を研究して、よりオリジナリティなアイデアを造形表現出来る。</li> <li>・修得した技術を駆使して完成度の高い作品を制作することができる。</li> </ul>	
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要の説明と導入</li> <li>2 課題④ “人物頭部”をモチーフにしてレリーフを制作する</li> <li>3 デザインチェック</li> <li>4 観察とアイデアスケッチ</li> <li>5 制作板制作①</li> <li>6 制作板制作②</li> <li>7 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作①</li> <li>8 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作②</li> <li>9 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作③</li> <li>10 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作④</li> <li>11 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作⑤</li> <li>12 フォルモ粘土による“モデリング”と“カービング”制作⑥</li> <li>13 作品講評</li> <li>14 課題⑤ 植物モチーフによるキューブデザイン</li> <li>15 デザインチェック</li> <li>16 研究とアイデアスケッチ</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 プレゼンシート作成 (A3 サイズ)</li> <li>2 支持体によるモデル制作①</li> <li>3 支持体によるモデル制作②</li> <li>4 支持体によるモデル制作③</li> <li>5 支持体によるモデル制作④</li> <li>6 作品講評</li> <li>7 課題⑥ デフォルメの研究</li> <li>8 デザインチェック</li> <li>9 研究とアイデアスケッチ</li> <li>10 プレゼンシート作成 (A3 サイズ)</li> <li>11 支持体によるモデル制作①</li> <li>12 支持体によるモデル制作②</li> <li>13 支持体によるモデル制作③</li> <li>14 支持体によるモデル制作④</li> <li>15 支持体によるモデル制作⑤</li> <li>16 作品講評</li> </ol>	
教科書 テキスト 参考書		
評価の方法	授業実習態度と提出作品の独創性・完成度による総合評価で行う。	
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を指導する。独創的発想と支持体の研究を実践する。	
備考		

科目名	専攻実習Ⅳ（油彩制作Ⅸ（古典技法））	担当者	小 笠 美 華
授業概要	<p>テンペラ画で主に模写を中心に制作する。支持体製作、地塗り、メディウム、絵具の調合等の実習を通して、絵画の物質的な成り立ちを学ぶ。</p> <p>また、制作過程において、技法の特性を理解しながら技術を習得し、技法の歴史を学ぶなかで作家、作品の研究から自身の作品の表現の幅を広げる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技法の特性と表現が密接に関係していることについて理解する。</li> <li>・技法の特性を理解しながら、特性を生かした作品を完成させる。</li> <li>・習得した知識や技術を各自の作品制作の展開につなげていける。</li> </ul>		
授業計画	<p>テンペラ画</p> <p>前 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 模写作品選定</li> <li>2 支持体製作① パネル</li> <li>3 支持体製作② 前膠</li> <li>4 支持体製作③ 布張り</li> <li>5 石膏地塗り①</li> <li>6 石膏地塗り②</li> <li>7 地塗り調整、削り、磨き</li> <li>8 下絵転写</li> <li>9 デッサン</li> <li>10 箔下とこの塗り</li> <li>11 とこの磨き</li> <li>12 金箔置き①</li> <li>13 金箔置き②</li> <li>14 金箔磨き、装飾</li> <li>15 メディウム作り、下絵</li> <li>16 描画1 顔、肌の下色</li> </ol> <p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 描画2 立体感描出</li> <li>2 描画3 肌色①</li> <li>3 描画4 肌色②</li> <li>4 描画5 肌色③</li> <li>5 描画6 肌色④</li> <li>6 描画7 顔の細部の描出</li> <li>7 描画8 背景を描く</li> <li>8 描画9 頭部、毛髪</li> <li>9 描画10 被り物、衣</li> <li>10 描画11 装飾品、模様</li> <li>11 描画12 全体のバランス①</li> <li>12 描画13 全体のバランス②</li> <li>13 描画14 黄金背景の装飾①</li> <li>14 描画15 黄金背景の装飾②</li> <li>15 描画16 完成へ</li> <li>16 16 まとめ、評価</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	<p>参考書：『黄金背景テンペラ画の技法』田口安男（著）、『黄金テンペラ技法』紀井利臣（著） 『画家のための処方箋』ロバート・マッセイ（著）山添耕治（訳）</p>		
評価の方法	<p>授業に取り組む姿勢と、作品による評価。</p>		
実務経験	<p>個展、グループ展等の展覧会での作品発表や画材研究など作家としての活動経験を活かし、画材料の取り扱いや技法の特性を具体的に指導する。</p>		
備考	<p>デリケートな仕事なので、画材料、道具の丁寧な使用と、制作室を使いやすく清潔に保つことを心がけること。</p>		

科目名	専攻実習IV（日本画制作Ⅻ・ⅫⅢ）	担当者	辻野 宗一・吉岡 佐知
授業概要	自由な構想に基づく制作の前提となる小下図の制作に合わせ、自己の設定したテーマを端的に表す小品作品の制作を行う。大作作品の表現でつかみづらい全体の構成力や独自の表現の可能性を探る。表現技術においても小品に応じた工夫が必要である。 また、日本画材料の特性を生かした新しい表現の可能性を探る。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに基づくイメージを小下図に表現することができる。</li> <li>・適切な技法を用いて小品作品を完成させる。</li> <li>・日本画材の表現方法を研究し発表することができる。</li> </ul>		
授業計画	<p><b>前期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 作家作品研究1</li> <li>3 作家作品研究2</li> <li>4 作家作品研究3</li> <li>5 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究1</li> <li>6 小品のための取材（写生）・テーマ小下図研究2</li> <li>7 研究発表</li> <li>8 小品制作（2点）／パネル制作</li> <li>9 小品制作／草稿</li> <li>10 小品制作／制作1</li> <li>11 小品制作／制作2</li> <li>12 小品制作／制作3・中間合評会</li> <li>13 小品制作／制作4</li> <li>14 小品制作／制作5</li> <li>15 小品制作／制作6</li> <li>16 合評会</li> </ol> <p><b>後期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 画材研究1</li> <li>2 画材研究2</li> <li>3 画材研究3</li> <li>4 画材研究4</li> <li>5 画材研究合評会</li> <li>6 制作3／小下図</li> <li>7 制作3／小下図・草稿</li> <li>8 制作3／草稿・草稿合評</li> <li>9 制作3／パネル制作・水張り・転写</li> <li>10 制作3／水干下塗り</li> <li>11 制作3／水干彩色1</li> <li>12 制作3／水干彩色2</li> <li>13 制作3／岩絵の具彩色1</li> <li>14 制作3／岩絵の具彩色2</li> <li>15 制作3／岩絵の具彩色3</li> <li>16 合評会</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、プロの作家として必要な個人的な表現力、小品制作や習作を含めた作品制作の指導を行う。		
備考			

科目名	専攻実習Ⅳ（立体造形実習Ⅳ）	担当者	中 川 賀 照
授業概要	専攻実習Ⅰ～Ⅲで学んだ立体造形の技法を基に、各自が設定したテーマに応じて立体表現を追求していきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テラコッタやデジタルデータ等による造形表現を理解し、作品に応用することができる。</li> <li>・自分の興味関心にあった材料や技法を考えることができる。</li> <li>・長期間追求できる題材やテーマを設定することができる。</li> </ul>		
授 業 計 画	<p><b>前 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ 課題Ⅰ（モデリングによる造形）</li> <li>2    ・テーマの設定</li> <li>3    ・アイディスケッチ</li> <li>4    ・エスキースの制作</li> <li>5        ・制作①</li> <li>6        ・制作②</li> <li>7        ・制作③</li> <li>8        ・制作④</li> <li>9        ・制作⑤</li> <li>10       ・制作⑥</li> <li>11       ・制作⑦</li> <li>12       ・制作⑧</li> <li>13       ・制作⑨</li> <li>14       ・制作⑩</li> <li>15       ・合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol> <p><b>後 期</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○ 課題Ⅱ（デジタルデータやテラコッタによる自由造形）</li> <li>2    ・テーマの設定</li> <li>3        ・アイディスケッチ</li> <li>4        ・エスキースの制作</li> <li>5        ・モデリングソフトによる加工①</li> <li>6        ・モデリングソフトによる加工②</li> <li>7        ・モデリングソフトによる加工③</li> <li>8        ・3Dプリント①</li> <li>9        ・3Dプリント②</li> <li>10       ・モデリングソフトによる加工④</li> <li>11       ・モデリングソフトによる加工⑤</li> <li>12       ・3Dプリント③</li> <li>13       ・成型①</li> <li>14       ・成型②</li> <li>15       ・合評</li> <li>16 ○ まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書	適宜、プリントや資料を配布する。		
評価の 方法	発想や制作のプロセス、取り組む姿勢などを総合的に評価する。		
実務経験	大学や県民講座の講師、作家活動などの実務経験を生かし、立体表現に関する知識や技能などを指導する。		
備考	実習に適した服装、実習の準備や片付けの励行。		

D群科目 1回生 ■実技演習・実技実習  
1年次 演習 6単位 通年

科目名	実技演習 I		担当者	平田 泰延・辻野 宗一・西岡 幸二 松本 康代・近藤 卓浪・片山 知佳
授業概要	表現のモチーフとなる対象を正確に観察することができ、かつ理解を深めることで自己の表現が十分に発揮できるようにする。			
到達目標	専門的な思考法と教養を修得して、自己の芸術的表現ができる能力や姿勢が身についている。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～3回 風景 油彩 10号～15号①② 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号①～③ 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30号 10回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ 油彩 30号 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2回 制作のためのエスキース I、II 3回 制作のためのエスキース I、II 4回 制作のためのエスキース I、II 5回～6回 制作 I 油彩 100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～10回 制作 I ①～③ 11～12回 制作 II 油彩 50号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14～15回 制作 II ①② 16回 審査 判定	
	日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2回 小下図の研究・草稿 3回 草稿・パネル制作 4～9回 制作 題材取材(写生)とテーマ研究 ①～⑥ 10回 合評会 研究発表・相談会 11回 小下図の研究・草稿 12回 草稿・草稿合評 13回 パネル制作・水張り・骨がき 14～15回 制作 題材取材(写生)とテーマ研究 16回 合評会	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～4回 制作 題材取材(写生)とテーマ研究 ①～④ 5回 合評会 研究発表・相談会 6回 小下図の研究・草稿 7回 草稿・草稿合評 8回 パネル制作・水張り・骨がき 9～15回 制作①～⑦ 美術館鑑賞 題材取材(写生)とテーマ研究 学外講師特別講義 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 映像制作基礎 2回 映像プランの立て方 3～4回 映像コンテ作成①② 5回 撮影準備 6～8回 撮影①～③ 9～10回 編集①② 11回 録音ミキシング 12回 作品講評 13～16回 3Dモデリング①～④	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 イベントプランニング 2～3回 企画コンテ作成①② 4～5回 撮影①② 6～8回 編集①～③ 9回 音楽、効果音 10～15回 制作指導①～⑥ 16回 まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9 回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12 回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16 回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2 回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4 回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6 回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10 回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15 回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16 回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16 回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 課題2 自主研究テーマ課題 非鉄金属の鑄造/導入と機械工具等の使用説明 3 回 デザイン研究・デザインチェック 4 回 プレゼンシート作成 5～9 回 制作①～⑤ 10 回 作品講評 11 回 課題2 自主研究テーマ課題 鉄の加工/導入 12～13 回 企画工具等の使用説明とデザイン研究 デザインチェック 12 回 プレゼンシート作成 15～16 回 制作①②	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～3 回 制作③～⑤ 4 回 作品講評 5～6 回 課題3 自主研究テーマ課題1 作成内容の確認 7～10 回 制作①～④ 11 回 経過チェック 12～13 回 組み立て、着色①② 14～15 回 展示研究①② 16 回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅱ		廣田 美乃・松浦 直子・西岡 幸二 石黒 紀子・中井 由希子・藤本 菜穂子
授業概要	身近にある様々な造形メディアを研究することにより、自己の表現領域が広がり、表現形態も多様化するようになる。		
到達目標	造形表現領域における多様なメディアを認知して、それぞれの特性を生かすことができる。		
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 制作①エスキース①～③ 5～7回 制作①油彩 50号以上1点以上①～③ 8回 講評会 9～14回 制作① ①～⑥ 15回 合同講評会 16回 制作①完成へ	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1～4回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ プランチェック 5回～6回 制作Ⅰ油彩100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～10回 制作Ⅰ①～③ 11～12回 制作Ⅱ油彩50号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14～15回 制作Ⅱ①② 16回 審査 判定
	日本画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と模写制作1のための作品選定 2回 制作手順確認、制作準備 3～5回 模写制作1-1～3 6回 学外研修(古画鑑賞1) 7～15回 模写制作1-4～12 16回 作品裏打ち	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 模写制作2のための作品選定・制作手順確認、制作準備 2～4回 模写制作2-1～3 5回 学外研修(古画鑑賞2) 6～12回 模写制作2-4～10 13回 模写制作2-11 展示計画 14回 模写制作2-12 15～16回 模写作品裏打ち 表装仕上げ1-2
デザイン	デザイン	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 映像制作基礎 2回 映像プランの立て方 3～4回 映像コンテ作成①② 5回 撮影準備 6～8回 撮影①～③ 9～10回 編集①② 11回 録音ミキシング 12回 作品講評 13～16回 3Dモデリング①～④	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 イベントプランニング 2～3回 企画コンテ作成①② 4～5回 撮影①② 6～8回 編集①～③ 9回 音楽、効果音 10～15回 制作指導①～⑥ 16回 まとめ

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 授業内容「セルフプランニング」説明・課題導入 2回 リサーチ・市場開始 3回 授業内容「プロブレムソリューション」説明・課題導入 4～6回 フィールドワーク開始 経過チェック1.2 7回 リサーチ分析・リサーチシート作成 8回 デザイン開始 9回 デザインシート作成 10～15回 第一次・第二次・第三次プロトタイプ開始～経過チェック～完成 16回 講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 授業内容“3Dクラフティング”課題導入 2回 3Dソフトウェア概要説明 3～7回 3Dソフトウェア基礎学習1～5 8回 3Dロゴデザイン制作 9回 3Dロゴデザイン配置計画 10～14回 配置オブジェクト制作～経過チェック1～4 15回 プレゼンテーションシート作成 16回 講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、演習課題やテーマへの取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅲ		担当者	廣田 美乃・松浦 直子・山本 史聖 松本 康代・酒井 沙織・青木 聖
授業概要	専攻するメディアの特性と可能性を追求して、自己表現の支持体として修得できるようにする。			
到達目標	洗練された高度な技術・技法を修得して、表現支持体を自在に活用できる。			
	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 制作①エスキース①～③ 5～7回 制作①油彩 50号以上1点以上①～③ 8回 講評会 9～14回 制作① ①～⑥ 15回 合同講評会 16回 制作①完成へ	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ プランチェック 5回～6回 制作Ⅰ油彩100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～10回 制作Ⅰ①～③ 11～12回 制作Ⅱ油彩50号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14～15回 制作Ⅱ①② 16回 審査 判定	
授業計画	日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 授業ガイダンス・図版による作品鑑賞と模写制作1のための作品選定 2回 制作手順確認、制作準備 3～5回 模写制作1-1～3 6回 学外研修(古画鑑賞1) 7～15回 模写制作1-4～12 16回 作品裏打ち	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 模写制作2のための作品選定・制作手順確認、制作準備 2～4回 模写制作2-1～3 5回 学外研修(古画鑑賞2) 6～12回 模写制作2-4～10 13回 模写制作2-11 展示計画 14回 模写制作2-12 15～16回 模写作品裏打ち 表装仕上げ1-2	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 イラストレーション表現を使ったプロダクト制作①②③リサーチ、アイデアスケッチ 5～10回 イラストレーション表現を使ったモバイル制作①～⑥リサーチ、アイデアスケッチ、制作、組み立て 11～15回 コンペ作品用作品の制作①～⑤制作 16回 まとめ・講評	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～5回 イラストレーション表現を使ったペーパーグラフィック制作①～⑤リサーチ、アイデアスケッチ、試作品制作 6～10回 イラストレーション表現を使ったペーパーグラフィック制作⑥～⑩制作、仕上げ 11～12回 展示計画①② 13回 作品撮影 14～15回 作品プロモーション・ポートフォリオ制作①② 16回 まとめ・講評	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;">前 期</p> 1回 課題制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザインが提出・テーマ設定・デザイン研究・素材研修 2～5回 サンプル・マーケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;">後 期</p> 1回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研修 2～5回 サンプル・マーケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 7～10回 制作①～④ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、表現支持体の活用、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習IV		担当者	小笠 美華・神澤 孝宣 河野 榮一・酒井 沙織・青木 聖	
授業概要	作品に込めたコンセプトやメッセージを社会に向け強く発信できるようにプレゼンテーション能力を高める。				
到達目標	自己の芸術的表現メッセージを他者や社会に向けて十分に発信ができるとともに、コミュニケーションが図れる。				
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのこ塗り 11回 とのこ磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌の下色	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価		
	日本画	/		/	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 自主企画・アイデア 2回 リサーチ メディア研究 3回 リサーチをもとにした企画・アイデアの再考 4回 プロット・構成 5～7回 ネーム・ラフ 1～3 8～10回 コンテンツ制作 1～5 11～12回 仕上げ・編集 1.2 13回 アウトプット 14回 展示計画 15回 展示・発表 16回 制作のまとめと振り返り	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 自己作品の振り返りと発表形態のリサーチ 2回 リサーチに基づいたセルフプロデュースの企画・アイデア 3回 企画の再考とスケジューリング 4回 プロット・構成 5回 ネーム・ラフ 6～9回 コンテンツ制作 1～4 10回 制作作業 11～12回 仕上げ・編集・アウトプット 13～15回 展示・発表準備 1～3 16回 模擬展示発表を通じた制作のまとめと振り返り		

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 課題1 自主研究テーマ課題 非鉄金属の铸造/導入と機械工具等の使用説明 3回 デザイン研究・デザインチェック 4回 プレゼンシート作成 5～9回 制作①～⑤ 10回 作品講評 11回 課題2 研究テーマ課題 鉄の加工/導入 12～13回 機械工具等の使用説明とデザイン研究 デザインチェック 14回 プレゼンシート作成 15～16回 制作①②	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～3回 制作③～⑤ 4回 作品講評 5～6回 課題3 自主研究テーマ課題 制作内容の確認 7～10回 制作①～④ 11回 経過チェック 12～13回 組み立て、着色①② 14～15回 展示研究①② 16回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	5つの系の中から1つを選択して履習する。		



授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 課題制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の構想や達成度及び制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅱ		小笠 美華・広岡 真彩彦・ブラッキー中島 河野 榮一・近藤 卓浪・小西 佳子
授業概要	表現のテーマ設定や可能性を研究して、メディアを通じてイメージの具現化を実習する。		
到達目標	表現としてのコミュニケーション手段を理解し、造形センスの練磨による独創的な作品表現ができる。		
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのこ塗り 11回 とのこ磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌到下色	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価
	日本画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 作家作品研究 1～3 5～6回 写生・テーマ研究・小下図 1, 2 7回 研究発表 8回 小品制作 (2点)・草稿 9回 パネル制作 10～15回 小品制作 1～6 16回 合評会	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1～4回 画材研究 1～4 5回 画材研究発表会 6～10回 制作 3/小下図・草稿・草稿合評・パネル制作・水張り・転写・水干・下塗り 11～12回 制作 3/水干彩色 1, 2 13～15回 制作 3/岩絵具彩色 1～3 16回 合評会
デザイン		<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 ｲﾝﾃﾞｻﾞｲﾝからデザインへ 1～3 5回 合評・プレゼンテーション 6～9回 デザイン的思考・プロジェクト テーマ選定 1～4 10回 テーマ決定 11～15回 実習「プロジェクト」1～5 16回 前期のまとめ (中間発表) 後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1～15回 実習「プロジェクト」6～20 16回 合評・プレゼンテーション

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 授業内容「花器」説明・課題導入 2回 リサーチ・市場開始 3～4回 リサーチ・植物開始～植物決定 5回 デザインリサーチ・植物開始 6回 デザイン開始 7回 コンセプト立案 8回 形状検討 9回 デザインシート作成 10～15回 第一次・第二次・第三次プロトタイプ ング開始～経過チェック～完成 16回 講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 授業内容「ブランディング」説明・課題導入 2回 セルフリサーチ開始 3回 リサーチシート作成 4回 ブランディング対象選定 5回 ブランディング対象物分析 6～8回 言語化・体現化・視覚化作業開始 9回 ブランド名決定 10～11回 ロゴ・ラフデザイン・ロゴデザイン完成 12～13回 メイン・ロガクトデザイン・コンセプト立案 14～15回 ラフトローイング・プレゼンテーションシート作成 16回 講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や制作に取り組む姿勢、表現としてのコミュニケーション手段の理解度などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅲ		担当者	岸中延年・石股 昭・ブラッキー中島 松本 康代・中井 由希子・濱 久仁子		
授業概要	造形表現のためのメディア技術力の練磨と、より高次元な技術の修得を目指して実習する。					
到達目標	様々な表現メディアの知識と技能をもち、個性ある創作活動ができる。					
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 制作1 アクアチント説明 (歴史、技法)版の準備 2回 下絵制作 テーマ「物と私」(下 絵提出) 3回 下絵を版に転写 描画 腐食 [エッチング] 4回 描画 腐食[アクアチント] 5回 描画 腐食 刷り(試し刷り提出) 6回 本刷り(本刷り提出) 7回 制作2「アクアチントを使った表 現」下絵制作 8~9回 下絵制作①② 10回 版下を版に転写 製版 11~15回 製版(試し刷り提出)①~⑤ 16回 本刷り 合評(本刷り提出)		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作3 自由制作 版の準備 2~5回 下絵制作(下絵提出)①~④ 6~15回 製版(試し刷り提出)①~⑩ 16回 本刷り 合評(本刷り提出)		
		日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1~2回 制作1/オリエンテーション、小下 図、草稿、下図研究発表 3~4回 制作1/パネル制作・水張り・骨が き、下塗り 5~9回 水干彩色1,2、岩絵具彩色1~3 10回 合評会 11~12回 制作2/小下図、草稿、小下図研究発 表 13~15回 制作2/パネル制作・水張り・骨がき、 下塗り、水干彩色 16回 合評会		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1~4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色1~3 5回 合評会 6~7回 制作3/小下図、草稿、小下図研究 発表 8~9回 制作3/パネル制作・水張り・骨が き、下塗り、水干彩色 10~11回 水干彩色1,2 12~15回 岩絵具彩色1~4 16回 合評会	
			デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2~4回 インテュからデザインへ1~3 5回 合評・プレゼンテーション 6~9回 デザイン的思考・プロジェクト テーマ選定1~4 10回 テーマ決定 11~15回 実習「プロジェクト」1~5 16回 前期のまとめ(中間発表) 後期に向けてのガイダンス		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1~15回 実習「プロジェクト」6~20 16回 合評・プレゼンテーション

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準じるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 課題①シンボルのデザイン/導入 2回 テーマ・コンセプト考察 3回 発案とデザイン画の制作 4回 素材、技法の実験 5～8回 実技制作①～④ 9回 課題②-1 学外展示用印刷資料の制作について/導入 10回 グループ展の企画内容、会場構成、開催趣旨などの共有 11回 DM制作・ポスター制作・パンフレット制作の担当、出品作家決定 12～15回 各自の担当資料の制作①～④ 16回 まとめ・講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 課題②-2 学外展示・学祭展示に関する資料の制作/導入 2～3回 課題①の紹介資料とキャプションの制作 4～5回 課題②-3 学祭展示用プレゼンテーション資料の制作①② 6～7回 課題③ “ならもよう” デザインテーマ・コンセプトの考察 8～9回 染色体験・ディスカッション①② 10回 “ならもよう” 染色 11～12回 プレゼンテーション資料の制作①② 13～15回 課題④進級制作のプレゼンテーション資料の制作①② 16回 まとめ・講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の理解度、表現力、関心度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅳ		担当者	小笠 美華・中尾 壽男・アラトシ ダンカ 石黒 紀子・河合 英幸・片山 知佳
授業概要	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。			
到達目標	様々な表現メディアの体験を通して、多様な表現方法による創作活動ができる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1 回 オリエンテーション 2～3 回 風景 油彩 10 号～15 号①② 3～5 回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30 号①～③ 6 回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号 8 回 講評会 9 回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 30 号 10 回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11 回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14 回 人体 二人 組ポーズ油彩 30 号①～③ 15 回 合同講評会 16 回 自画像 10 号	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1 回 制作につながる作品 30 号程度 2 回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 3 回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 4 回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 5 回～6 回 制作Ⅰ 油彩 100 号以上一点以上①② 7 回 講評会 8～10 回 制作Ⅰ①～③ 11～12 回 制作Ⅱ 油彩 50 号以上一点以上①② 13 回 合同講評会 14～15 回 制作Ⅱ①② 16 回 審査 判定	
	日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1～2 回 制作 1/オリエンテーション、小下図、草稿、下図研究発表 3～4 回 制作 1/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り 5～9 回 水干彩色 1, 2, 岩絵具彩色 1～3 10 回 合評会 11～12 回 制作 2/小下図、草稿、小下図研究発表 13～15 回 制作 2/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16 回 合評会	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～4 回 制作 2/水干彩色、岩絵具彩色 1～3 5 回 合評会 6～7 回 制作 3/小下図、草稿、小下図研究発表 8～9 回 制作 3/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 10～11 回 水干彩色 1, 2 12～15 回 岩絵具彩色 1～4 16 回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1 回 ガイダンス・オリエンテーション 2～3 回 活動を検討：アイデアをリサーチ 1. 2 4～5 回 活動を検討：提案・相談 1. 2 6 回 クリエイティブ研究 プロジェクト 1 7 回 基本リサーチ 8～10 回 準備 1～3 11～13 回 必要な作業・制作 1～3 14 回 現時点確認 15 回 プレゼンテーション 16 回 まとめ	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1 回 クリエイティブ研究 プロジェクト 2 2 回 基本リサーチ 3～4 回 準備 1. 2 5～7 回 必要な作業・制作 1～3 8～10 回 イベントに参加 1～3 11～12 回 活動後まとめ・アーカイブ 1. 2 13 回 現時点確認 14 回 プレゼンテーション準備 15 回 プレゼンテーション 16 回 授業まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主制作Ⅰ各種成形技法を用いた制作①～③ 6～9回 自主制作Ⅱ抽象-オブジェによる制作①～④ 10～12回 自主制作Ⅲ用と美を考える制作・現代技法、伝統技法①～③ 13～16回 自主制作Ⅳ基礎立体制作・陶彫・ミニアチュール・他	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1～2回 表現技法Ⅰ素地による表現①② 3～4回 表現技法Ⅱ釉薬による表現①② 5～6回 表現技法Ⅲ焼成による表現①② 7～10回 学外実技研修講座 美術館・展覧会・穴窯・登窯・その他の研修 11～15回 進級制作Ⅰ～Ⅴ 16回 まとめ
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 課題制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	それぞれの表現メディア技術の到達度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習V		担当者	平田 泰延・中尾 壽男・西岡 幸二 松本 康代・中井 由希子・片山 知佳
授業概要	造形作品と社会の関わりを理解して、アクションの必然性と重要性を学習し演習する。			
到達目標	芸術と社会の相関性を理解し、より高次元な表現能力を修得し、発信できる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～3回 風景 油彩10号～15号①② 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩30号①～③ 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩50号 10回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ油彩50号①～③ 15回 合同講評会 16回 自画像10号	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 3回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 4回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 5回～6回 制作Ⅰ油彩100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～9回 制作Ⅰ①② 10～12回 制作Ⅱ油彩100号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 15回 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16回 審査 判定	
	日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1～2回 制作1/オリエンテーション、小下図、草稿、下図研究発表 3～4回 制作1/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り 5～9回 水干彩色1,2、岩絵具彩色1～3 10回 合評会 11～12回 制作2/小下図、草稿、小下図研究発表 13～15回 制作2/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16回 合評会	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色1～3 5回 合評会 6～7回 制作3/小下図、草稿、小下図研究発表 8～9回 制作3/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 10～11回 水干彩色1,2 12～15回 岩絵具彩色1～4 学外講師による特別授業 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 映像制作基礎 2回 映像プランの立て方 3～4回 映像コンテ作成①② 5回 撮影準備 6～8回 撮影①～③ 9～10回 編集①② 11回 録音ミキシング 12回 作品講評 13～16回 3Dモデリング①～④	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 イベントプランニング 2～3回 企画コンテ作成①② 4～5回 撮影①② 6～8回 編集①～③ 9回 音楽、効果音 10～15回 制作指導①～⑥ 16回 まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7 回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10 回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11 回 中間発表会・実制作 12 回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15 回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16 回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 中間発表会・実制作 2 回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7～8 回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12 回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13 回 中間発表会 14 回 実制作 15 回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16 回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5 回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13 回 皮革本制作①～⑧ 14～15 回 仕上げ・修正①② 16 回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5 回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13 回 皮革本制作①～⑧ 14～15 回 仕上げ・修正①② 16 回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価するとともに、学外展での発信や授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習VI		担当者	小笠 美華・広岡 真彩彦・ブナト ダカ 河野 榮一・酒井 沙織・和田 誠之		
授業概要	制作した作品を通して社会とコミュニケーションがとれるように、様々な方法と手段を研究する。					
到達目標	作品を体系化して、現代社会の多様な領域に向けて、自己の能力を明確に、より強く発信できる。					
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～3回 風景 油彩 10号～15号①② 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号①～③ 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ油彩 50号①～③ 15回 合同講評会 16回 自画像 10号		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2回 制作のためのエスキース I、II 3回 制作のためのエスキース I、II 4回 制作のためのエスキース I、II 5回～6回 制作I 油彩 100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～9回 制作I ①② 10～12回 制作II 油彩 100号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14回 制作II 15回 制作I、II 完成 16回 審査 判定		
		日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1～2回 制作1/オリエンテーション、小下図、草稿、下図研究発表 3～4回 制作1/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り 5～9回 水干彩色 1,2、岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11～12回 制作2/小下図、草稿、小下図研究発表 13～15回 制作2/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16回 合評会		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6～7回 制作3/小下図、草稿、小下図研究発表 8～9回 制作3/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 10～11回 水干彩色 1,2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 学外講師による特別授業 16回 合評会	
			デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 ガイダンス・オリエンテーション 2～3回 活動を検討：アイデアをリサーチ 1.2 4～5回 活動を検討：提案・相談 1.2 6回 クリエイティブ研究 プロジェクト1 7回 基本リサーチ 8～10回 準備1～3 11～13回 必要な作業・制作 1～3 14回 現時点確認 15回 プレゼンテーション 16回 まとめ		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 クリエイティブ研究 プロジェクト2 2回 基本リサーチ 3～4回 準備 1.2 5～7回 必要な作業・制作 1～3 8～10回 イベントに参加 1～3 11～12回 活動後まとめ・アーカイブ 1.2 13回 現時点確認 14回 プレゼンテーション準備 15回 プレゼンテーション 16回 授業まとめ

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7 回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10 回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11 回 中間発表会・実制作 12 回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15 回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16 回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 中間発表会・実制作 2 回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7～8 回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12 回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 13 回 エスキスの制作 14 回 中間発表会 15 回 実制作 16 回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～15 回 自由制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 課題1 自主研究テーマ課題 錫の酒器/導入 3 回 デザイン研究 4 回 プレゼンチェック 5 回 プレゼンシート作成 6～9 回 制作①～④ 10 回 中間チェック 11～15 回 制作⑤～⑨ 16 回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 課題2 自主研究テーマ課題2 2 回 デザイン研究 3 回 プレゼンチェック 4 回 プレゼンシート作成 5～8 回 制作①～④ 9 回 中間チェック 10～14 回 制作⑤～⑨ 15 回 展示研究 16 回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、周辺社会への働きかけや授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技演習Ⅶ		担当者	廣田 美乃・石股 昭・西岡 幸二 松本 康代・酒井 沙織・藤本 菜穂子
授業概要	自己の表現について到達目標と授業計画に基づいて、高い完成度で造形表現できるようにする。			
到達目標	各系列において修得した教養・専門知識と練磨した芸術的感性をもとに、現代社会で才能を十分に発揮し、活躍できる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 制作①エスキース①～③ 5～7回 制作①油彩 50号以上1点以上①～③ 8回 講評会 9～14回 制作① ①～⑥ 15回 合同講評会 16回 制作①完成へ	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～4回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ プランチェック 5回～6回 制作Ⅰ油彩100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～10回 制作Ⅰ①～③ 完成 10～12回 制作Ⅱ油彩50号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14～15回 制作Ⅱ 完成 16回 審査 判定	
	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1～2回 制作1/オリエンテーション、小下図、草稿、下図研究発表 3～4回 制作1/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り 5～9回 水干彩色1,2、岩絵具彩色1～3 10回 合評会 11～12回 制作2/小下図、草稿、小下図研究発表 13～15回 制作2/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色1～3 5回 合評会 6～7回 制作3/小下図、草稿、小下図研究発表 8～9回 制作3/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 10～11回 水干彩色1,2 12～15回 岩絵具彩色1～4 学外講師による特別授業 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 映像制作基礎 2回 映像プランの立て方 3～5回 映像コンテ作成①～③ 6回 撮影準備 7～9回 撮影①～③ 10回 編集 11回 録音ミキシング 12回 作品講評 13～16回 3Dモデリング①～④	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～3回 3Dアニメーション①～③ 4回 作品合評 5回 イベントプランニング 6回 企画コンテ作成 7回 素材作成 8回 編集 9回 音楽、効果音 10～15回 制作指導①～⑤ 16回 まとめ	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定技法の検討 13回 エスキスの制作 14回 中間発表会 15回 実制作 16回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 授業内容の説明 導入 ネックピースのデザイン 2～3回 デザインリサーチ①② 4回 資料の分析と纏め 5回 コンセプト立案 6回 形状検討 素材研究 7回 デザインシート作成 8～14回 実制作①～⑦ 15回 展示プランニング及び実施 16回 講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 授業内容の説明 導入 プローチorヘアオーナメントのデザイン 2～3回 デザインリサーチ①② 4回 資料の分析と纏め 5回 形状検討 素材研究 6～7回 試作パーツ制作①② 8回 デザインシート作成 9～15回 実制作①～⑦ 16回 講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の到達度を合評会等で評価し、授業に取り組む姿勢も含めて総合評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習V		担当者	高橋 顕児・大槻 睦子・関根 祐司 惣田 司・近藤 卓浪・片山 知佳
授業概要	表現技法として多様なメディア体験を通して、自己の表現領域が拡張できるようにする。			
到達目標	実技と理論の研究をとおして、対象物に対する客観的分析能力をもち、新たな創造の力を身に付けている。			
授業 計 画	洋画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 オリエンテーション 2～3回 風景 油彩 10号～15号①② 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号①～③ 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ油彩 50号①～③ 15回 合同講評会 16回 自画像 10号	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2回 制作のためのエスキース I、II 3回 制作のためのエスキース I、II 4回 制作のためのエスキース I、II 5回～6回 制作I 油彩 100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～9回 制作I ①② 10～12回 制作II 油彩 100号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14回 制作II 15回 制作I、II 完成 16回 審査 判定	
	日本画	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1～2回 制作1/オリエンテーション、小下図、草稿、下図研究発表 3～4回 制作1/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り 5～9回 水干彩色 1, 2, 岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11～12回 制作2/小下図、草稿、小下図研究発表 13～15回 制作2/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16回 合評会	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1～4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6～7回 制作3/小下図、草稿、小下図研究発表 8～9回 制作3/パネル制作・水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 10～11回 水干彩色 1, 2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;"><u>前期</u></p> 1回 ガイダンス テーマ設定について 2～4回 設定したテーマの周辺情報収集 1.2 5回 コンセプトシート作成 6～7回 全体構想フローチャート作成 1.2 8～9回 資料収集・ラフ案 1.2 10～11回 表現技法の決定 1.2 12～15回 試作 1～4 16回 試作作品検討	<p style="text-align: center;"><u>後期</u></p> 1回 テーマ設定 2～3回 設定したテーマの周辺情報収集 1.2 4回 コンセプトシート作成 5回 全体構想フローチャート作成 6回 アイデア展開 7～15回 制作 1～9 16回 プレゼンテーション・総括	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキースの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキースの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキースの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキースの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキースの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出・テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13回 皮革本制作①～⑧ 14～15回 仕上げ・修正①② 16回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	表現の構想力、作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習VI		担当者	小笠 美華・辻野 宗一・ブラッキー中島 河野 榮一・伊藤 藍・片山 知佳
授業概要	美術工芸作品に関心を向け研究することにより、自身が目指すべき個性の指針が発見できるようにする。			
到達目標	様々な表現領域についての見識をもち、自己の作品表現のための表現コンセプトを確立して作品制作ができる。			
	洋画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 模写作品選定 2～4回 支持体製作 下絵制作①～③ 5～6回 石膏地塗り①② 7回 地塗り調整 8回 下絵転写 9回 デッサン 10回 箔下とのこ塗り 11回 とのこ磨き 12～13回 金箔置き①② 14回 金箔磨き、装飾 15回 メディウム作り、下絵 16回 描画 顔、肌の下色	<p style="text-align: center;">後期</p> 1回 描画 立体感描出 2～5回 描画 肌色①～④ 6回 描画 顔の細部の描出 7回 描画 背景を描く 8回 描画 頭部、毛髪 9回 描画 被り物、衣 10回 描画 装飾品、模様 11～12回 描画 全体のバランス①② 13～14回 描画 黄金背景の装飾①② 15回 描画 完成へ 16回 まとめ、評価	
授業計画	日本画	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2回～4回 作家作品研究 1、2、3 5～6回 小品のための取材(写生)・テーマ小下図研究 1、2 7回 研究発表 8～15回 小品制作／パネル制作／草稿／制作 1～6 16回 合評会	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～4回 画材研究 1～4 5回 画材研究合評会 6～7回 制作／小下図・草稿 8回 制作／草稿・草稿合評 9回 制作／パネル制作・水張り・転写 10回 制作／水干下塗り 11～12回 制作／水干彩色 1、2 13～15回 制作／岩絵の具彩色 1～3 16回 合評会	
	デザイン	<p style="text-align: center;">前期</p> 1回 オリエンテーション 2～4回 インタビューからデザインへ 1～3 5回 合評・プレゼンテーション 6～9回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ選定 1～4 10回 テーマ決定 11～15回 実習「プロジェクト」1～5 16回 前期のまとめ(中間発表) 後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;">後期</p> 1～15回 実習「プロジェクト」6～20 16回 合評・プレゼンテーション	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7 回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10 回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11 回 中間発表会・実制作 12 回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15 回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16 回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 中間発表会・実制作 2 回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7～8 回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12 回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13 回 中間発表会 14 回 実制作 15 回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16 回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 専攻科展作品制作・自主研究テーマ課題の制作・コンテストデザイン画提出・テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5 回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13 回 皮革本制作①～⑧ 14～15 回 仕上げ・修正①② 16 回 作品講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 自主研究テーマ課題の制作 テーマ設定・デザイン研究・素材研究 2～5 回 サンプル・マケット制作①～④ 6～13 回 皮革本制作①～⑧ 14～15 回 仕上げ・修正①② 16 回 作品講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	選択した技法の到達度や作品の達成度や制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅶ		担当者	廣田 美乃・石股 昭・山本 史 松本 康代・酒井 沙織・小西 佳子		
授業概要	造形表現の領域においての自己の確立と個性の表出が、いかに社会と関わるのかを追求する。					
到達目標	表現者として主体的に社会との関係を認識し、現代社会における問題意識を踏まえて個性的な観点から美的価値の創造ができる。					
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～3回 風景 油彩 10号～15号①② 3～5回 人体 女性 立ちポーズ デッサン 油彩 30号①～③ 6回 人体 男性 固定ポーズ デッサン 7回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 8回 講評会 9回 人体 男性 固定ポーズ 油彩 50号 10回 人体 男性 動くポーズ デッサン 11回 人体 二人 組ポーズ デッサン 12～14回 人体 二人 組ポーズ油彩 50号①～③ 15回 合同講評会 16回 自画像 10号		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 制作につながる作品 30号程度 2回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 3回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 4回 制作のためのエスキースⅠ、Ⅱ 5回～6回 制作Ⅰ 油彩 100号以上一点以上①② 7回 講評会 8～9回 制作Ⅰ①② 10～12回 制作Ⅱ 油彩 100号以上一点以上①② 13回 合同講評会 14回 制作Ⅱ 15回 制作Ⅰ、Ⅱ 完成 16回 審査 判定		
		日本画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1～2回 制作1/オリエンテーション、小下図、草稿、小下図研究発表 3～4回 制作1/パネル制作、水張り、骨がき、下塗り 5～9回 水干彩色 1, 2、岩絵具彩色 1～3 10回 合評会 11～12回 制作2/小下図・草稿、小下図研究発表 13～15回 制作2/パネル制作、水張り・骨がき、下塗り、水干彩色 16回 合評会		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～4回 制作2/水干彩色、岩絵具彩色 1～3 5回 合評会 6～7回 制作3/小下図・草稿、小下図研究発表 8～9回 制作3/パネル制作、水張り・骨がき、下塗り 10～11回 水干彩色 1, 2 12～15回 岩絵具彩色 1～4 16回 合評会	
			デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2回 イラストレーション表現を使ったプロジェクト制作①リサーチ 3回 イラストレーション表現を使ったプロジェクト制作②アイデアスケッチ 4～8回 イラストレーション表現を使ったプロジェクト制作③～⑦制作、仕上げ 9回 コンペ作品用作品の制作①リサーチ 10回 コンペ作品用作品の制作②アイデアスケッチ 11～15回 コンペ作品用作品の制作③～⑦制作 16回 まとめ・講評・展示計画		<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1回 イラストレーション表現を使ったペーパーワーク制作①リサーチ 2～3回 イラストレーション表現を使ったペーパーワーク制作②③アイデアスケッチ 4～5回 イラストレーション表現を使ったペーパーワーク制作④⑤試作品制作 6～9回 イラストレーション表現を使ったペーパーワーク制作⑥～⑨制作 10回 イラストレーション表現を使ったペーパーワーク⑩仕上げ 11～12回 展示計画①② 13回 作品撮影 14～15回 作品プロモーション・ポスター制作①② 16回 まとめ・講評

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2回 制作準備・オリエンテーション 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11回 中間発表会・実制作 12回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 中間発表会・実制作 2回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6回 中間発表会・実制作 7～8回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13回 中間発表会 14回 実制作 15回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 展覧会、美術館研修 7～10回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5回 自由制作Ⅰ①～④ 6回 学外専攻科展 7～11回 自由制作Ⅱ①～④ 12回 展覧会、美術館研修 13～15回 進級制作Ⅲ①～④ 16回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1回 オリエンテーション 授業内容説明 課題導入“音の形”モビール作成 2回 “音”を視覚デザイン化するセルフリサーチ 3回 “音”想定描写 4回 モビールの構造分析 5～6回 デザインリサーチ・素材・構造 7回 コンセプト立案 8回 形状、素材検討 9回 デザインシート作成 10～15回 制作1～5 16回 プレゼンシート作成、講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1回 授業内容説明 課題導入“有機形態からのデザイン” 2回～4回 リサーチ 5回 リサーチシート制作 6～7回 アイデア検討 8～9回 素材検討1.2 10～14回 制作1～5 15回 プレゼンシート作成 16回 プレゼンテーション 講評 まとめ
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や社会への発表を踏まえた制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	6つの系の中から1つを選択して履習する。		

科目名	実技実習Ⅷ		担当者	岸中 延年・ブラッキー中島・石黒 紀子 河合 芙幸・濱 久仁子
授業概要	自己の到達目標を超えた次元での完成を体感することで得られる達成感を目指して実習する。			
到達目標	新たな技法による表現方法の研究を行い、社会生活の中で様々な創作活動ができる。			
授業計画	洋画	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 制作1 メゾチント 説明(歴史、技法) 版の準備 2回 下絵 テーマ 「ハーフトーンを活かした表現」 3回 メゾチント素地作り 下絵制作(下絵提出) 4回 メゾチント素地作り 5～8回 バニッシャーによる製版 (試し刷り提出) ①～④ 9回 本刷り(本刷り提出) 10回 制作2 自由制作 下絵制作 11～13回 下絵制作(下絵提出) ①～③ 14～16回 製版①～③	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～15回 製版(試し刷り提出) ①～⑮ 16回 本刷り 合評(本刷り提出)	
	日本画	/		/
	デザイン	<p style="text-align: center;"><b>前期</b></p> 1回 オリエンテーション 2～4回 インタビューからデザインへ 1～3 5回 合評・プレゼンテーション 6～9回 デザイン的思考・プロジェクトテーマ選定 1～4 10回 テーマ決定 11～15回 実習「プロジェクト」1～5 16回 前期のまとめ(中間発表) 後期に向けてのガイダンス	<p style="text-align: center;"><b>後期</b></p> 1～15回 実習「プロジェクト」1～15 16回 合評・プレゼンテーション (最終的に書籍化)	

授 業 計 画	陶 芸	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1～2 回 制作準備・オリエンテーション 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7 回 社会に発表する制作研究・合評会 8～10 回 自主研究テーマⅡアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 11 回 中間発表会・実制作 12 回 社会に発表する制作研究・合評会 13～15 回 自主研究テーマⅢアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 16 回 中間発表会・実制作	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 中間発表会・実制作 2 回 社会に発表する制作研究・合評会 3～5 回 自主研究テーマⅠアイデアスケッチ・テーマの設定・技法の検討・エスキスの制作 6 回 中間発表会・実制作 7～8 回 社会に発表する制作研究・合評会 9～12 回 修了制作 アイデアスケッチ・テーマの設定 技法の検討 エスキスの制作 13 回 中間発表会 14 回 実制作 15 回 社会に発表する制作研究・合評会
	染 織	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準ずるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 展覧会、美術館研修 7～10 回 自由制作Ⅱ①～④ 11～16 回 自由制作Ⅲ①～⑤	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 個々の年間計画表に基づいて自由制作(作品点数は美術科2回次に準じるが、専門分野により個別に相談) 2～5 回 自由制作Ⅰ①～④ 6 回 学外専攻科展 7～11 回 自由制作Ⅱ①～④ 12 回 展覧会、美術館研修 13～15 回 進級制作Ⅲ①～④ 16 回 総合合評
	ク ラ フ ト ( 工 芸 ) デ ザ イ ン	<p style="text-align: center;"><b>前 期</b></p> 1 回 授業内容説明・課題①ワークショップの企画を立案/導入 2 回 テーマ、コンセプト考察/準備 3～5 回 ワークショップ体験・ディスカッション①～③ 6～8 回 プレゼンテーション資料の制作①～③ 9 回 課題②-1 学外展示用印刷資料の制作について/導入 10 回 グループ展の企画内容、会場構成、開催趣旨などを共有 11 回 DM制作・ポスター制作・パンフレット制作の担当・出品作家決定 12～15 回 各自担当資料制作①～④ 16 回 まとめ・講評	<p style="text-align: center;"><b>後 期</b></p> 1 回 課題②-2 学外展示・学祭展示に関する資料の制作について/導入 2～3 回 紹介資料とキャプション制作①② 4～5 回 課題②-3 学祭展示用プレゼンテーション資料の制作①② 6～7 回 課題③ “ならもよう” /導入 8～9 回 染色体験とディスカッション①② 10 回 “ならもよう” 染色 11～12 回 プレゼンテーション資料の制作①② 13 回 課題④修了制作のプレゼンテーション資料の制作/導入 14～15 回 プレゼンテーション資料の制作①② 16 回 まとめ・講評
教科書 テキスト 参考書	必要に応じてプリント資料を配布し、参考書、参考作品等も適宜紹介する。		
評価の 方法	作品の達成度や更にも上のレベルへの向上心などの制作に取り組む姿勢などにより総合的に評価する。		
備考	5つの系の中から1つを選択して履習する。		

E群科目 1回生 ■実技演習

専攻科1年次 演習 3単位 後期

科目名	進級制作（洋画）	担当者	小笠 美華
授業概要	自身が選択した主題で進級制作作品に取り組む。自身の作品目標に基づいて表現したいものが伝えられている作品になっているか問いながら進める。進級のための必修要件。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が選択した主題を絵画表現へとつなげる試行が出来る。</li> <li>・油彩制作において表現したいものを表す工夫が出来る。</li> <li>・自身の作品について説明できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>後期 50号以上1枚以上、100号以上1枚以上 基本として油彩表現</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作につながる作品 30号程度</li> <li>2 主題の選択、構想を練る</li> <li>3 制作のためのエスキースⅠ</li> <li>4 制作のためのエスキースⅡ</li> <li>5 制作Ⅰ.1 油彩 100号以上一点以上</li> <li>6 制作Ⅰ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>7 講評会</li> <li>8 制作Ⅰ.3 作品としての制作の学習①</li> <li>9 制作Ⅰ.4 作品としての制作の学習②</li> <li>10 制作Ⅰ.5 完成</li> <li>11 制作Ⅱ.1 油彩 50号以上一点以上</li> <li>12 制作Ⅱ.2 自分らしい表現への展開</li> <li>13 合同講評会</li> <li>14 制作Ⅱ.3 作品としての制作の学習</li> <li>15 制作Ⅱ.4 完成</li> <li>16 審査判定</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	制作に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	進級制作（日本画）	担当者	石 股 昭
授 業 概 要	植物、鳥獣類、風景及び人物等の写生を通して、日本画の伝統的な表現技法を学びつつ、各人が個性豊かな作品を完成させる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作テーマに応じた表現方法を選択し作品を完成させる。</li> <li>・自らの作品について客観的に理解し述べるができる。</li> </ul>		
授 業 計 画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作テーマの研究 (100号～150号から選択)</li> <li>2 写生・構想等の展開1</li> <li>3 写生・構想等の展開2</li> <li>4 写生・構想等の展開3</li> <li>5 小下図の研究・相談会</li> <li>6 草稿の仕上げ</li> <li>7 パネル作り</li> <li>8 制作1</li> <li>9 制作2</li> <li>10 制作3</li> <li>11 制作4・中間合評</li> <li>12 制作5</li> <li>13 制作6</li> <li>14 制作7</li> <li>15 制作8</li> <li>16 最終合評</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の 方法	作品に対する取り組み及び達成度で評価する。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備考			

専攻科1年次 演習 3単位 後期

科目名	進級制作（立体造形）	担当者	谷口 嘉彦・富松 留幹 中川 賀照
授業概要	専攻科1年間の学習成果として、立体造形表現分野に関する、知識と表現技法のまとめとして自由な構想による作品表現を行う。立体世界と空間認識に対する基本的知識と理解を元に、3次元世界での自由な作品表現を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な立体造形表現方法について説明することができる。</li> <li>・表現コンセプトを元的確な表現方法を選択して作品表現ができる。</li> <li>・自身の作品について明確に第三者に対してプレゼンテーションすることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 進級制作計画書作成</li> <li>2 ・発想、着想からの構想展開</li> <li>3 ・構想案アイデアスケッチ展開</li> <li>4 ・素材、表現技法の選択展開</li> <li>5 ○作品題名</li> <li>6 ○作品テーマ</li> <li>7 ○作品コンセプト</li> <li>8 ○資料調査展開</li> <li>9 ○表現方法、技術</li> <li>10 ○作品展示構想</li> <li>11 ○縮尺モデル</li> <li>12 *専攻科指導教員のもとで、十分に綿密な計画の上で制作進行する。</li> <li>13 *中間プレゼンテーション</li> <li>14 *改善点の指導</li> <li>15</li> <li>16 *審査、講評、まとめ</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備考			

E 群科目 2 回生 ■実技演習  
 専攻科 2 年次 演習 3 単位 後期

科目名	修了制作（洋画）	担当者	小 笠 美 華
授 業 概 要	自身が選択した主題で修了制作作品に取り組む。学んできたことを活用しつつ、作家として作品制作を継続していけるよう新たな表現に挑戦し、充実した作品の制作を目指す。 修了制作作品展においては作品を効果的に展示することについても学び、卒業後の活動につなげる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題の選択に独自性があり、表現したいものを表す工夫が出来る。</li> <li>・造形要素を活用して充実した作品になっている。</li> <li>・自身の作品を見せる工夫が出来、作品について説明できる。</li> </ul>		
授 業 計 画	後 期 大きき 100 号以上 2 点以上 基本として油彩表現 1 制作につながる作品 30 号程度 2 主題の選択、構想を練る 3 制作のためのエスキース I 4 制作のためのエスキース II 5 制作 I.1 油彩 100 号以上一点以上 6 制作 I.2 自分らしい表現への展開 7 講評会 8 制作 I.3 作品としての制作の学習① 9 制作 I.4 作品としての制作の学習② 10 制作 II.1 油彩 100 号以上一点以上 11 制作 II.2 自分らしい表現への展開 12 制作 II.3 作品としての制作の学習① 13 合同講評会 14 制作 II.4 作品としての制作の学習② 15 制作 I、II 完成 16 審査判定		
教科書 テキスト 参考書			
評価の 方法	制作に取り組む姿勢と、作品による評価。		
実務経験	個展、展覧会での作品発表と、大学等での教員としての経験を活かし、学生一人ひとりの特性に配慮しつつ、基本的な造形力を付け表現の可能性が広がるよう指導する。		
備考			

科目名	修了制作（日本画）	担当者	石 股 昭
授 業 概 要	四年間の集大成として、造形上のあらゆる技法や材料を効果的に表現に生かし、単なる思い付きや表面的な表現で終ることなく、自由な発想に基づく新しい造形表現を目指して、合評会等も行いながら、将来作家として活躍できるように制作する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な発想で新しい造形表現を目指した構想ができる。</li> <li>・様々な技法や材料を効果的に生かした表現ができる。</li> <li>・作品を完成すると共に修了制作展に展示し、自らの作品について述べるができる。</li> </ul>		
授 業 計 画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 制作テーマの研究 (100号～150号から選択)</li> <li>2 写生・構想等の展開1</li> <li>3 写生・構想等の展開2</li> <li>4 写生・構想等の展開3</li> <li>5 小下図の研究・相談会</li> <li>6 草稿の仕上げ</li> <li>7 パネル作り</li> <li>8 制作1</li> <li>9 制作2</li> <li>10 制作3</li> <li>11 制作4・中間合評</li> <li>12 制作5</li> <li>13 制作6</li> <li>14 制作7</li> <li>15 制作8</li> <li>16 最終合評</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の 方法	制作態度及び作品の達成度で評価。		
実務経験	定期的な展覧会の発表と受賞歴を有し、現に作家として活動する実務経験を生かして、個々のテーマの表現を客観的に見つめる力と作品にまとめ上げる力を高める指導を行う。		
備考			

科目名	修了制作（立体造形）	担当者	谷口 嘉彦・富松 留幹 中川 賀照
授業概要	専攻科2年間の学習成果として、立体造形表現分野に対する幅広い理解の元に、自由な発想・構想立案の上で制作するものです。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体造形表現分野に対する幅広い視点を持って表現活動が出来る。</li> <li>・表現コンセプトを元的確な表現方法を選択して作品表現ができる。</li> <li>・自身の作品について明確に第三者に対してプレゼンテーションすることができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>後 期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 修了制作計画書作成</li> <li>2 ・作品構想の展開</li> <li>3 ・素材、表現技法等の選択展開</li> <li>4 ・構想案アイデアスケッチ展開</li> <li>5 ○作品題名</li> <li>6 ○作品テーマ</li> <li>7 ○作品コンセプト立案</li> <li>8 ○資料調査展開</li> <li>9 ○表現方法、表現技術</li> <li>10 ○作品展示構想案</li> <li>11 ○縮尺模型</li> <li>12 *中間プレゼンテーション</li> <li>13 *専攻科指導教員のもとで、十分に綿密な計画の上で制作を進行する。</li> <li>14 *修了制作プレゼンテーション</li> <li>15 *改善点の指導</li> <li>16 *審査・講評</li> </ol>		
教科書 テキスト 参考書			
評価の方法	作品テーマ設定と表現方法の整合性、制作プロセス及び作品完成度の総合評価。		
実務経験	彫刻家としての実務経験を活かして、立体造形の基礎知識と技術を教える。個性豊かな独創的発想と造形素材の研究を指導する。		
備考			